

2019年度

講義要項

保育学科

西日本短期大学

目 次

保育学科

< 1 年次開講科目 >

基礎科目

健康・スポーツ科学Ⅰ	1
健康・スポーツ科学Ⅱ	2
心理学	3
コンピュータ演習Ⅰ	4
コンピュータ演習Ⅱ	5
総合演習Ⅰ	6
総合演習Ⅱ	7
茶道文化Ⅰ	8
茶道文化Ⅱ	9

専門科目

教育原理	10
保育原理	11
保育者論	12
子ども家庭福祉	13
社会的養護Ⅰ	14
社会福祉概論	15
保育の心理学	16
子ども理解と保育援助	17
教育心理学	18
特別支援教育総論	19
子どもの保健	20
子どもの健康と安全	21
保育内容総論	22
保育の計画と評価	23
幼児と健康	24
幼児と言葉	25
幼児と表現	26
保育内容の理解と方法(ことば遊び)	27
保育内容の理解と方法(身体遊び)	28
保育内容の理解と方法(音遊び)	29
保育内容の理解と方法(感覚遊び)	30
幼児教育方法論	31
乳児保育Ⅰ	32
乳児保育Ⅱ	33
障害児保育Ⅰ	34
子どものためのピアノ表現Ⅰ	35
子どもと音楽表現Ⅰ	36
子どもと造形表現Ⅰ	37
保育園芸	38
保育所実習Ⅰ	39
施設実習Ⅰ	40
保育実習指導ⅠA	41
保育実習指導ⅠB	42
教育実習指導Ⅰ	43
学外文化研修	44
児童館・放課後児童クラブの機能と運営	45
レクリエーション概論	46

< 2 年次開講科目 >

基礎科目

日本国憲法	47
英語 I	48
英語 II	49
中国語 I	50
中国語 II	51

専門科目

幼児教育教師論	52
相談援助	53
教育心理学	54
子どもの食と栄養 I	55
子どもの食と栄養 II	56
家庭支援論	57
教育課程総論	58
保育内容 I (子どもと健康)	59
保育内容 II (子どもと環境)	60
保育内容 III (子どもと言葉)	61
保育内容 IV (子どもと人間関係)	62
造形表現指導法	63
障害児保育 II	64
社会的養護内容	65
保育相談支援	66
子どもと音楽表現 II	67
運動遊び	68
保育所実習 II	69
施設実習 II (施設・児童館)	70
保育実習指導 II (保育所)	71
保育実習指導 III (施設・児童館)	72
教育実習指導 II	73
教育実習	74
保育・教職実践演習 (幼稚園)	75
卒業研究	76
児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法 I	77
レクリエーション実技 I	78
レクリエーション実技 II	79

健康・スポーツ科学 I

Health & Sports Science I (Lecture)

《 2 単位(講義) / 1 年前期 / 保育士必修・幼稚園教諭必修 》

1 年

担 当 者

福 田 潤

授 業 到 達 目 標

運動・スポーツの生理学的基礎理論の理解を踏まえて、生涯にわたっての運動やスポーツを取り入れた生活が健康の保持・増進にとっていかに重要であるかを理解し、自発的に積極的な運動やスポーツの実践につながることを目標とする。

授 業 内 容

運動やスポーツが人間の「からだ」や「こころ」にどのような働きかけをするのか、生活習慣病の予防や健康管理の意義と実際について学ぶ。
毎回、授業の始めに健康チェック（体温・脈拍数・食事・体調等）を行います。

準備学習等の
内 容

日頃から健康管理に心がけ、生活リズムを整えて規則正しい生活を送みましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション		
2	現代生活における健康と運動		
3	運動とからだの健康①からだの健康・運動不足と健康障害		
4	運動とからだの健康②運動の身体的効果と健康づくり		
5	運動処方		
6	運動と心の健康①心の健康・ストレスと健康		
7	運動と心の健康②運動・スポーツの心理的効果と心の健康づくり		
8	運動療法		
9	健康生活と運動①健康生活とスポーツ ②生活習慣と運動		
10	健康生活と運動③これからの生活と運動・スポーツ		
11	女性の健康と運動・スポーツに関わる安全性		
12	健康づくりのための運動①		
13	健康づくりのための運動②		
14	スポーツ科学の基礎知識		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
なし		適宜資料を配付する。 新版「健康と運動の科学」 九州大学健康科学センター編 大修館書店	①レポート課題50% ②授業参加状況30% ③健康 チェック記録表20%を基に総合評価する。

健康・スポーツ科学Ⅱ

Health & Sports Science Ⅱ (Exercise)

《 1 単位(実技) / 1 年後期 / 保育士必修・幼稚園教諭必修 》

1 年

担 当 者

牛 原 信 次

授 業 到 達 目 標

健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）における運動・スポーツの生理学的基礎理論の理解を踏まえて、子どもの運動遊びやスポーツを取り入れた生活が健康の保持・増進、子どもの発育・発達にとっていかに重要であるかを認識し、自発的に積極的な運動やスポーツの実践につながることを目標とする。

授 業 内 容

基本的な運動・遊びやゲーム・スポーツ種目を通して、運動やスポーツの楽しさを実感するとともにコミュニケーション能力を養う。
毎回、準備運動としてラジオ体操を行う。

準 備 学 習 等 の 内 容

現代の健康課題や発育・発達を理解し、スポーツの楽しさやからだを動かすことの快さを発見できるように日頃から健康（体調）管理に気をつける。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション／授業記録表の記入	
2	基本的な運動①子どもの動作獲得	
3	基本的な運動②協応動作	
4	コーディネーション・トレーニング	
5	SAQ トレーニング（ラダー・ミニハードル）	
6	跳び箱・マット運動／サーキット	
7	パラバルーン／キャッチング・ザ・スティック	
8	ミニサッカー①基礎技術／ゲーム	
9	ミニサッカー②ゲーム	
10	ソフトバレー	
11	バレーボール	
12	バドミントン①基礎技術／ゲーム	
13	卓球①基礎技術／ゲーム	
14	バドミントン②ゲーム／卓球②ゲーム	
15	まとめ（授業記録表）	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
なし	適宜資料を配付する。 「保育と幼児期の運動あそび」 岩崎洋子編 大修館書店	①授業参加状況（50％） ②課題30％ ③授業記録表 20％を基に総合評価する。

心理学

Psychology

《 2 単位(講義) / 1 年前期 / 卒業必修 》

1 年

担 当 者

富 永 明 子

授 業 到 達 標

心理学の基礎知識・理論を学び、こころの成り立ちを通して、自分や他者のありようを理解することをめざします。この授業は、「保育の心理学」や「教育心理学」の基礎となる分野です。

授 業 内 容

心理学とは人のこころを科学的に理解するための学問です。幅広いこころの世界をさまざまな角度から見つめ、自分自身の日常にひきつけながら理解していきます。理論の学習、ならびに体験的ワークを行います。

準 備 学 習 等 の 内 容

事前の準備は特に指定しませんが、授業の内容を自分の日常において振り返ることにより理解が深まります。主体的に考え、積極的な関心をもって授業内容に取り組んでください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション／心理学とは何か		
2	感覚・知覚		
3	記憶		
4	欲求と行動		
5	感情と情動		
6	性格（1）性格とは		
7	性格（2）自分の性格を知るには		
8	無意識と深層の心理		
9	知能		
10	集団と社会行動		
11	こころの問題		
12	こころの問題への対処		
13	援助の心理と行動		
14	生き方への応用		
15	授業のまとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
適宜プリントを配布		「心理学」無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 有斐閣	筆記試験80%、受講態度・レポート20%

コンピューター演習 I

Exercises in Computer I

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 幼稚園教諭必修 》

1 年

担 当 者

稲 田 義 邦

授 業 到 達
目 標

園の運営上必要な文書作成及び表計算の習得を目指す。

授 業 内 容

園児の家庭連絡用文書及び健康管理・成長の記録など、文書作成及び表計算の基礎を学ぶ。

準 備 学 習 等 の
内 容

演習なので、授業前の準備、授業後の自主製作が重要である。授業の中での、指導や助言を的確に実践することに努めること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス		
2	Word による文字入力の練習 1		
3	Word による文字入力の練習 2		
4	Word によるスタイルの設定		
5	Word による行数や文字数の変更		
6	Word による文書作成 1		
7	Word による文書作成 2		
8	Word による表作成		
9	Excel の画面確認とデータ入力		
10	Excel での計算		
11	Excel による表作成 1		
12	Excel による表作成 2		
13	Excel による会計		
14	Excel による健康管理表		
15	課題完成・提出		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「よくわかる Word 2013&Excel 2013&PowerPoint 2013」富士通 エフ・オー・エム(株)FOM 出版		なし	課題提出90%・受講態度10%

コンピューター演習Ⅱ

Exercises in Computer Ⅱ

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 幼稚園教諭必修 》

1 年

担 当 者

稲 田 義 邦

授 業 到 達 目 標

情報発信の必要性と課題について理解を深めつつ、実際の保育場面で活用できる電子紙芝居や電子絵本などを子どもたちや保護者に分かりやすい表現で作成するとともに、実習指導案を作成することにより現場で役立つスキルの習得を目指す。

授 業 内 容

実務で使われることが多い Office のアプリケーションを利用して、電子紙芝居や電子絵本・実習指導案などを実際に作成し、現場で役立つスキルを習得するとともに、子どもたちの視点から見た表現方法の工夫についても考察する。

準 備 学 習 等 の 内 容

身近にある案内状などをファイリングするとともに、子どもたちが興味を持つ紙芝居や絵本について考えておく。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス		
2	Word による文書作成 1		
3	Word による文書作成 2		
4	PowerPoint の機能と特徴		
5	PowerPoint によるスライドの作成 1		
6	PowerPoint によるスライドの作成 2		
7	PowerPoint によるスライドの作成 3		
8	PowerPoint によるスライドの発表		
9	PowerPoint による電子紙芝居・電子絵本作成 1		
10	PowerPoint による電子紙芝居・電子絵本作成 2		
11	PowerPoint による電子紙芝居・電子絵本作成 3		
12	PowerPoint による電子紙芝居・電子絵本作成 4		
13	Word や Excel による指導案作成 1		
14	Word や Excel による指導案作成 2		
15	課題完成・提出		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「よくわかる Word 2013&Excel 2013&PowerPoint 2013」富士通 エフ・オー・エム(株)FOM 出版		なし	課題提出90%・受講態度10%

総合演習 I

Seminar I

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 卒業必修 》

1 年

担 当 者

富永明子・稲田義邦・平山隆浩・吉原美南子・小堀晶弘・余公裕次・四童子薫・下稻美里

授 業 到 達 目 標

保育士・幼稚園教諭が保育現場で直面する多様な課題に適切に対応し、子どもの保育と保護者に対する支援を確実に担っていくには、高い専門性と人間性が求められる。そこで1年次より様々な実践内容を取り入れ、キャリアの土台づくりを目指す。

授 業 内 容

総合演習 I では保育者を目指す学生に適切な進路指導と、社会的に要請が増している社会人基礎力並びに学士力の向上を図るため、ボランティア活動・社会活動を通じて、専任教員が各個人に即して指導を行っていく。

準備学習等の内 容

授業への参加態度そのものも重要な学びです。毎回授業概要をよく見て、何事にも積極的に受講すること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	建学の精神と学科の方針・実習規程・履修指導		
2	社会人基礎力①学習基礎スキル		
3	社会人基礎力①学習基礎スキル		
4	社会人基礎力②学生健康調査について		
5	社会人基礎力③社会人としてのマナー		
6	ボランティアの意義		
7	クラス交流		
8	文化祭について		
9	文化祭準備		
10	個別面談		
11	個別面談		
12	進路ガイダンス就職模擬試験		
13	ボランティア活動		
14	前期試験の諸注意		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
なし		大学生からはじめる社会人基礎力トレーニング 唐沢 明 著 丸善出版	課題レポート70% 授業への取り組み30%

総合演習Ⅱ

Seminar Ⅱ

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 卒業必修 》

1 年

担 当 者

富永明子・稲田義邦・平山隆浩・吉原美南子・小堀晶弘・余公裕次・四童子薫・下稻美里

授 業 到 達
目 標

保育士・幼稚園教諭が保育現場で直面する多様な課題に適切に対応し、子どもの保育と保護者に対する支援を確実に担っていくには、高い専門性と人間性が求められる。そこで1年次より様々な実践内容を取り入れ、キャリアの土台づくりを目指す。

授 業 内 容

総合演習Ⅱでも、引き続き保育士を目指す学生に適切な進路指導と、社会的に要請が増している社会人基礎力並びに学士力の向上を図るため、ボランティア活動・社会活動を通じて、専任教員が各個人に即して指導を行っていく。

準備学習等の
内 容

毎回授業概要をよく見て、何事にも積極的に受講すること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	学期始めの諸連絡と履修指導	
2	マナー講座	
3	文化祭準備	
4	進路ガイダンス (適性)	
5	文化祭準備	
6	文化祭準備	
7	進路ガイダンス	
8	進路ガイダンス (就職模擬試験)	
9	卒業研究説明会	
10	卒業研究個別説明会	
11	社会人基礎力④習熟度チェック	
12	労働法講座	
13	ボランティア活動	
14	卒業研究面談	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
なし	大学生からはじめる社会人基礎力トレーニング 唐沢 明 著 丸善出版	課題レポート70% 授業への取り組み30%

茶道文化 I

Culture of Tea Ceremony I

《 1 単位(演習) / 1 年前期 》

1 年

担 当 者

吉 井 恵 子

授 業 到 達 目

茶道は日常生活から掛け離れた特別のものではありません。相手を思いやり、心を配り、おもてなしをするのが茶道の精神です。「一服の茶を点て、客をもてなす」ことを通して茶道の精神を学び、和室での作法、立ち居振るまい、挨拶の仕方などを身につけて下さい。

授 業 内 容

茶の湯の歴史や道具、四季折々の茶の湯に関する行事などを、プリントや写真を使って授業をします。
全員が風炉の薄茶点前がひと通り出来るように、実技稽古を毎回行います。

準 備 学 習 等 の 内 容

心に余裕をもち、季節のうつろいを楽しむ感性を身につけて下さい。
いろいろな場面での挨拶の仕方や、他人に対しての「心づかい」を意識しながら毎日を過ぎて下さい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション	和室での作法・挨拶
2	風炉薄茶点前を見る	茶の湯の道具・客の作法
3	割けいこ (帛紗さばき他)	茶の歴史
4	〃 (茶筌とおし他)	呈茶の作法
5	〃 (水屋の仕事)	おもてなしについて
6	風炉薄茶点前 (前半)	
7	〃	
8	〃	
9	〃	
10	風炉薄茶点前 (全)	
11	〃	
12	〃	炭道具について
13	〃	拝見のしかた
14	〃	
15	総括・茶会	
教科書(必須)		評価基準
必要に応じてプリント配布		「茶の湯表千家」他 実技40%・受講態度60%などで総合評価

茶道文化Ⅱ

Culture of Tea Ceremony Ⅱ

《 1 単位(演習) / 1 年後期 》

1 年

担 当 者

吉 井 恵 子

授 業 到 達 標

茶の湯はあらゆる日本の伝統文化や伝統工芸を含んでいます。
書・焼物・塗物・木・竹・金物などの工芸品や、料理・菓子・建築・庭についてふれながら日本の文化を学びます。茶の湯を通して、おもてなしの心と相手を思いやる心を身につけて下さい。

授 業 内 容

茶道文化に関する歴史・茶道具・茶室・茶庭・茶花など参考資料や写真を使って勉強します。
前期に稽古した風炉薄茶点前の復習と、炉薄茶点前の稽古をします。後期から履修する人は割
けいこから始めます。

準 備 学 習 等 の 内 容

美術館 博物館などに足を運び、書・焼物・工芸品など日本の伝統文化にふれて下さい。機会
があれば、お茶会に行ってください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション	和室での作法・挨拶
2	風炉薄茶点前	五感で楽しむ
3	〃	呈茶の作法
4	〃	茶の湯の歴史
5	〃	茶の湯と季節・茶花
6	炉薄茶点前を見る	茶の湯の道具 (炉・風炉の違い)
7	炉薄茶点前	茶室と露地
8	〃	
9	〃	
10	〃	
11	〃	茶事について
12	〃	濃茶について
13	〃	
14	〃	
15	総括・茶会	

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

必要に応じてプリント配布

「茶の湯こころと美」他

実技40%・受講態度60%などで総合評価

教育原理

Principle of Education

《 2 単位(講義) / 1 年後期 / 保育士必修・幼稚園教諭必修 》

1 年

担 当 者

余 公 裕 次

授 業 到 達 標

- 1 教育の意義、教育の目的、教育と保育について理解する。
- 2 教育の思想と歴史の変遷を学び、教育の基礎的事項を理解する。
- 3 教育制度、教育政策、諸法規について理解する。
- 4 教育課程、教育実践の多様な取り組み、経営的实践、評価について理解する。
- 5 幼保小の連携や安全教育の必要性、また、乳幼児期の教育・保育の現状と課題について考察する。

授 業 内 容

「教育とは何か」「人間の成長とは何か」という基礎的基本的な問題について、哲学、思想、歴史的側面から理解する。
また、社会における幼児教育機関での教育の営み、教育課程、教育制度、教育政策、諸法規などの内容を理解し、教育の在り方について自分で考える基礎力を身に付ける。

準 備 学 習 等 の 内 容

保育者を目指すものとしての基礎的・基本的なことを学ぶので、理解を促すため、教科書を予め読んでおき、授業に臨むこと。
教育に関わる事柄、特に乳幼児の教育・保育には常に関心を持ち、情報収集を行い、自分の考えが言えること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション 授業の目的、内容、評価方法、学習の仕方等の概説及びグループ編成
2	教育とは何か、教育の意味と目的、教育と保育の関係について
3	教育の思想と歴史の変遷 (1) プラトン、コメニウス、ルソー、カント、ペスタロッチ、オウエンを中心に
4	教育の思想と歴史の変遷 (2) フレーベル、エレン・ケイ、デューイ、倉橋惣三を中心に
5	日本における学校教育制度 (1) 幼稚園制度の誕生 (明治期)
6	日本における学校教育制度 (2) 幼稚園制度の発展 (大正・昭和期)
7	公教育を支える戦後の諸法規について (1) 憲法・教育基本法・学校教育法
8	公教育を支える戦後の諸法規について (2) 幼稚園教育要領・保育所保育指針等の基準の変遷
9	幼稚園・保育所・認定こども園 (文化の融合・幼保一元化)
10	教育制度を支える教育行政の仕組みについて
11	各学校段階の教育課程の基本的な枠組みと幼保小の連携
12	地域との連携を核とする開かれた学校づくり
13	危機管理と安全教育の必要性について
14	教育をめぐる現代の諸課題について
15	まとめ

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

余公敏子『教育・保育の原理』
光生館、2017年
文部科学省『幼稚園教育要領解
説』フレーベル館、2018年

厚生労働省『保育所保育指針解
説』フレーベル館、2018年
内閣府、文部科学省、厚生労働省
『幼保連携型認定こども園教
育・保育要領解説』フレーベル
館、2018年

平常点20% レポート提出20% 筆記試験60%

保育原理

Principles of Child Care and Education

《 2単位(講義) / 1年前期 / 卒業必修・保育士必修 》

1年

担当者

下 稻 美 里

授業到達
目 標

保育の意義及び目的について理解し、保育所保育指針における保育の基本について学ぶ。また、保育の思想と歴史の変遷、保育の現状・課題について理解を深める。

授業内容

保育の基本を学ぶとともに、保育とは何かを考え、保育の本質を探っていく。主に講義形態であり、具体的に理解ができるよう視覚教材や資料等を用いる。

準備学習等の
内 容

教科書の目次に目を通し、どのような章立て、内容等で構成されているかを確認してください。

授業計画等

授業テーマ

1	オリエンテーション ～保育とは?～		
2	保育の概念と定義		
3	保育所と幼稚園の違い ～保育所保育指針、幼稚園教育要領を活用して～		
4	子どもの権利保障と保育		
5	保育の社会的役割と責任		
6	保育所保育指針の制度的位置付け		
7	保育所保育における基本原則		
8	保育の目標		
9	保育の計画		
10	保育の内容		
11	保育の環境と方法		
12	日本の保育の思想と歴史の変遷		
13	諸外国の保育の思想と歴史の変遷		
14	保育の現状と課題		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
最新 保育原理-わかりやすく保育の本質に迫る- [第4版] (2016) 島田ミチコ(監)・上中修(編) 保育出版社		授業内で適宜紹介します	受講参加態度15%、提出物25%、筆記試験60%

保育者論

Nursery teacher theory

《 2単位(講義) / 1年後期 / 保育士必修 》

1年

担 当 者

下 稻 美 里

授 業 到 達 目 標

講義を通して保育者の役割と倫理、協働、保育士の制度的位置付けについて理解する。また保育士の専門性について考え、理解を深めていく中で、社会人として働くことや保育者として子どもや保護者、同僚とかかわることへの自覚と責任を持つことができるようになる。

授 業 内 容

保育者の役割や専門性等の理解が深まるように、具体的な事例を挙げたり、視覚教材や資料を用いたりしながら理解を深めていく。自分の保育観を明確にしながら、保育士像を確立していく。

準 備 学 習 等 の 内 容

視野を広げて様々な園や保育について調べる。
毎回の授業の振り返りを行きましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション ～保育者のイメージ～
2	社会人になる自覚と責任 ～働くということ～
3	保育所の日と保育士の役割① ～午前保育～
4	保育所の日と保育士の役割② ～午後保育～
5	保育所の日と保育士の役割③ ～動植物とのかかわり～
6	遊びの中の保育者の役割 ～保育事例を基に探る～
7	保育士の制度的位置付け① ～保育士の定義～
8	保育士の制度的位置付け② ～資格・要件～
9	保育者の倫理①
10	保育の専門性と省察
11	保育者の連携・協働 ～語り合いと学び合い～
12	家庭との連携と保護者に対する支援
13	専門職間及び専門機関との連携・協働
14	地域における自治体や関係機関等との連携・協働
15	まとめ

教科書(必須)

新しい保育講座2 保育者論
(2018) 塩見稔幸・大豆生田啓
友(編) ミネルヴァ書房

参考書・参考文献

適宜紹介します。

評価基準

受講参加態度15%、提出物25%、筆記試験60%

子ども家庭福祉

Child and family welfare

《 2単位(講義) / 1年後期 / 保育士必修 》

1年

担 当 者

工 藤 歩

授 業 到 達 標

子ども家庭福祉の歴史的成り立ちを理解することを通じて、今日の現代社会における子ども家庭福祉の意義と役割について考える。
また保育士国家資格取得に向けての中心的科目であることを理解した上で、過去から現代にわたる子ども家庭福祉の理念、意義、歴史、法体系、制度的枠組み等を包括的に理解することを目的とする。
さらに専門職者からの視点に留まらず、「生活者」としての人々の、それぞれが抱える問題についての視点も捉えられるようになることを目的とする。

授 業 内 容

子ども家庭福祉に関連する歴史的変遷、理念と、法体系、そしてそれらの基盤となる子どもの人権と尊厳についてと、それらを支える専門職及び関連分野との連携・ネットワーク等について学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

今回の講義に関する項目について教科書を読んで予習しておくこと。
事後学習は講義で配布した資料をもとに教科書、参考文献等を使った復習をおこなうこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーションー子ども家庭福祉の原理と理念の理解ー
2	子ども家庭福祉と子どもの権利保障
3	子ども家庭福祉の歴史的背景（1）
4	子ども家庭福祉の歴史的背景（2）
5	子ども家庭福祉における関連法規の概要
6	子ども家庭福祉の制度・政策
7	児童虐待と家庭支援
8	社会的養護と子ども家庭支援
9	「子どもの貧困」問題
10	保育士とソーシャルワーク
11	少子化対策
12	子ども家庭福祉とネットワーク構築
13	障がい児、病児支援
14	児童健全育成支援
15	地域における子ども家庭福祉支援

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

ミネルヴァ書房「子ども家庭福祉」倉石哲也、伊藤嘉余子、澁谷昌史

ミネルヴァ書房「保育小六法」

試験60%、レポート20%、受講態度20%

社会的養護 I

Social Child Care I

1年

《 2単位(講義) / 1年前期 / 保育士必修 》

担 当 者

日下部 修

授 業 到 達 標

- ①社会的養護の意義と歴史の変遷を理解する。
- ②社会的養護と児童福祉の関連性と児童の権利擁護について理解する。
- ③社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
- ④社会的養護における児童への保育士の役割と援助を理解する。
- ⑤社会的養護の現状と課題を理解する。

授 業 内 容

- ①社会的養護の意義と歴史の変遷
- ②社会的養護と児童家庭福祉
- ③社会的養護の制度や実施体系
- ④施設用語の実際
- ⑤社会的養護の現状と課題

準 備 学 習 等 の 内 容

テキストの次回講義に関連ある箇所を読んでおいてください。
新聞やニュース、図書館の文献を通して社会的養護の現状に関心をもって下さい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	社会的養護の定義と理念		
2	社会的養護の歴史の変遷		
3	児童社会福祉の一分野としての社会的養護		
4	児童の権利擁護と社会的養護		
5	社会的養護の制度と体系		
6	社会的養護の仕組みと実施体系		
7	家庭養護と施設養護		
8	社会的養護の専門職・実施者		
9	施設養護の基本原則		
10	施設養護の実際		
11	施設養護とソーシャルワーク		
12	施設等の運営管理		
13	倫理の確立		
14	被措置児童等の虐待防止		
15	社会的養護と地域福祉		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
『保育実践と社会的養護』 井村圭壯 相澤譲治 勁草書房		授業中に適宜紹介します。	①定期試験 90% ②受講態度 10%

社会福祉概論

Introduction to Social Welfare

《 2単位(講義) / 1年前期 / 保育士必修 》

1年

担当者

福田 九

授業到達
目 標

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
3. 社会福祉における相談援助について理解する。
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

授業内容

本講義では、保育における社会福祉の意義について学ぶ。社会福祉の理念や概念、歴史を学ぶことによって、社会福祉における保育の本質をつかむ、保育専門職として関わっていくなかでのソーシャルワーク実践や他の専門職と協働作業ができる知識を身につけることを念頭に置いて学習を進める。

準備学習等の
内 容

各講義終了時に指示する。必ず、指示されたページを読んで授業に出ること。

授業計画等

授業テーマ

1	オリエンテーション (本講義説明)		
2	保育における社会福祉		
3	社会福祉の概念と理念		
4	社会福祉の歴史の変遷		
5	社会福祉と児童家庭福祉		
6	社会福祉の制度と法体系		
7	社会福祉行財政と実施機関		
8	社会福祉施設と専門職		
9	社会保障および関連制度		
10	相談援助の概要		
11	相談援助の具体的展開		
12	事例分析		
13	情報提供と第三者評価		
14	利用者の権利擁護と苦情解決		
15	社会福祉の動向と課題		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「社会福祉／社会福祉と相談援助」新保育士養成講座編纂委員会(社会福祉法人全国社会福祉協議会)		日本保育ソーシャルワーク学会(2017)「保育ソーシャルワーカーのお仕事ガイドブック」風鳴舎。 養老孟司・宮崎駿(2007)「虫眼とアニ眼」新潮文庫。	課題レポート40%、試験(筆記)60%

保育の心理学

Psychology of Nursing

《 2単位(講義) / 1年前期 / 保育士必修 》

1年

担 当 者

富 永 明 子

授 業 到 達
目 標

「心理学」をベースとして、保育実践に関わる心理学の知識を習得します。子どもの発達に関する心理学の基礎を学び、養護と教育の一体性に即して子どもを理解するとともに、乳幼児期の子どもの学びについての知識を習得し、保育における人との関わりや環境の意義について学びます。

授 業 内 容

それぞれのテーマごとに、その発達のプロセスを整理し、それらを保育現場と結びつけながら考えていきます。

準 備 学 習 等 の
内 容

学習内容を事前に概観しておくことは理解と知識習得を促進します。教科書の次回学習の内容を読んでおき、予習するようにしましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション／子どもの発達を理解することの意義		
2	子どもの発達と環境		
3	発達理論－生涯発達の視点から		
4	子ども観と保育観		
5	情緒の発達と自我		
6	自己主張と自己抑制		
7	愛着の形成と社会的相互作用		
8	身体的機能と運動機能の発達		
9	知覚と認知の発達		
10	ことばの発達と社会性		
11	基本的生活習慣の獲得と発達		
12	乳幼児期の学びに関わる理論		
13	子どもの遊びと学び		
14	乳幼児期の学びを支える保育		
15	授業のまとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「保育の心理学」井戸ゆかり編 著 萌文書林		「子どもとかかわる人のための心理学」沼山博・三浦主博(編著) 萌文書林	筆記試験80%、受講態度・レポート20%

子ども理解と保育援助

Understanding of Children and Nursing Support

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 保育士必修・幼稚園教諭必修 》

1 年

担 当 者

前 田 志 津 子

授 業 到 達 目 標

- (1) 幼児理解の意義を理解する。
- (2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解する。
- (3) 幼児理解を深めるための保育者の基本的な態度を理解する。

授 業 内 容

- (1) 保育は子ども理解から始まる。そのことの意味を捉え理解する。
- (2) 子どもの内面を理解し、発達や学びの過程で生じるつまずき、その要因把握の原理を理解する。
- (3) 幼児理解から保育者との信頼関係をつくり、一人一人に応じた援助のあり方を理解する。

準 備 学 習 等 の 内 容

子どもを取り巻く様々な情報をニュースや新聞等から収集しておく。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーションとして授業の位置づけその意味を理解し、自己課題をもつ		
2	保育における「子ども理解」とは、について理解する		
3	子どもの行動の意味について理解する		
4	子ども理解の基盤としての「カウンセリングマインド」について理解する		
5	子どもの発達過程について理解する		
6	子どもの生活や遊びから子ども理解を深める		
7	記録をとることの意味について理解する		
8	記録に基づく子ども理解について検討する		
9	観察するとは、その視点について考える		
10	保育の場で子どもを「見る」ということについて理解する		
11	子ども理解を深める保育カンファレンスとは		
12	保育カンファレンスの実態		
13	配慮を要する子ども理解と援助		
14	子育て支援保護者支援における子ども理解		
15	授業のまとめと課題		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
適宜資料を配布する		「子ども理解と保育援助」ミネルヴァ書房(高嶋景子、砂上史子、森上史朗編)	授業への取り組み参加態度30%、リアクションペーパーおよび筆記試験70%

教育心理学

Educational Psychology

《 2単位(講義) / 1年後期 / 幼稚園教諭必修 》

1年

担 当 者

富 永 明 子

授 業 到 達 目 標

教育に関することがらを心理学の知をもって解明する学問が教育心理学です。授業においては、主に幼児期の心身の発達と学習の過程について基礎的な知識を身につけ、発達段階ごとの心理的特性をふまえた子どもたちの学習活動を支える指導ができるための考え方を理解することをめざします。

授 業 内 容

子どもの生活における象徴的な場面について考察することを通して、心理学的なとらえ方、理解のしかたを身につけます。保育者として適切かつ質の良い実践ができるよう、事例について自分自身の意見を持ち、さらに他者の意見を検討することにより、多面的なものの見方を身につけ、理解を深めます。

準 備 学 習 等 の 内 容

事前にテキストを読み、予習することを心がけてください。受け身にならず、積極的な関心をもって主体的に授業に臨みましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション／教育心理学とは		
2	子どもの育ちについて(1) 発達とは～発達段階・発達課題		
3	子どもの育ちについて(2) 乳幼児期・児童期・青年期の発達		
4	子どもの学びについて(1) 学習		
5	子どもの学びについて(2) 知能、記憶		
6	動機づけについて(1) 内発的動機づけと外発的動機づけ		
7	動機づけについて(2) 子ども達のやる気を促すために		
8	教育方法について(1) 代表的な教育方法		
9	教育方法について(2) 子ども達の学びを支援するために		
10	教育評価について(1) 評価とは～評価の目的、基準、時期		
11	教育評価について(2) 幼児教育の現場における教育評価		
12	クラス運営について		
13	子どもの個性の理解について (パーソナリティ、主な人格理論)		
14	配慮を要する子どもについて		
15	事例を通じた考察、授業のまとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「保育のためのやさしい教育心理学」高村和代・安藤史高・小平英志著 ナカニシヤ出版		新保育ライブラリ 子どもを知る「教育心理学」無藤隆・麻生武編著 北大路書房	筆記試験80%、受講態度・レポート20%

特別支援教育総論

Special support education general remarks

《 1 単位(講義) / 1 年前期 / 幼稚園教諭必修 》

1 年

担 当 者

小 堀 晶 弘

授 業 到 達
目 標

特別な支援を要する幼児の障害の特性を理解し、適切な支援ができるようになる。

授 業 内 容

支援を必要とする幼児の特性の理解とインクルーシブ教育などの支援方法を学ぶ。

準備学習等の
内 容

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	特別支援教育の歴史と現状		
2	障がい児保育に必要な視点		
3	障がい児保育に必要な専門性		
4	障がい発生の医学的視点		
5	知的障害の原因と特性		
6	知的障害に対する支援方法		
7	自閉症スペクトラム障害 (ASD) の原因と特性		
8	自閉症スペクトラム障害 (ASD) に対する支援方法		
9	注意欠陥/多動性障害 (AD/HD) の原因と特性		
10	注意欠陥/多動性障害 (AD/HD) に対する支援方法		
11	学級運営の中での障がい児と障がいはないが教育的ニーズのある児への支援方法		
12	障がい児と障がいはないが教育的ニーズのある児の保護者支援と方法		
13	特別支援計画の作成方法と意義		
14	幼小連携の必要性和目的		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
なし		よくわかる障害児保育 (ミネルヴァ書房)	授業態度30%、筆記試験70%

子どもの保健

Institute Child Health and Human Development

《 2 単位(講義) / 1 年前期 / 保育士必修 》

1 年

担 当 者

東 島 明 子

授 業 到 達 目 標

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

授 業 内 容

1. 子どもの心身の健康と保健の意義
2. 子どもの身体的発育・発達と保健
3. 子どもの心身の健康状態とその把握
4. 子どもの疾病の予防及び適切な対応

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・ 日常のこどもの行動やさまざまな環境に目を向け、指導者としての観察力を身につけるよう心がけておきましょう。
- ・ 教科書を読んで事前学習をしておきましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的		
2	健康の概念と健康指標		
3	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題		
4	地域における保健活動と子ども虐待防止		
5	身体発育及び運動機能の発達と保健		
6	生理機能の発達と保健		
7	健康状態の観察		
8	発育・発達の把握と健康診断		
9	保護者との情報共有		
10	主な疾病の特徴① 新生児の病気、先天性の病気		
11	主な疾病の特徴② 循環器、呼吸器、血液、消化器の病気		
12	主な疾病の特徴③ アレルギー、免疫の病気、腎泌尿器、内分泌の病気		
13	主な疾病の特徴④ 脳の病気、その他の疾患		
14	主な疾病の特徴⑤ 感染症		
15	子どもの疾病の予防と適切な対応 まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
子どもの保健 松田博雄、金森三枝 中央法規		ふくおか子育て支援ガイド 医療保育テキスト 保育所保育指針 ほか	筆記試験80%、レポート10%、受講態度10%

子どもの健康と安全

Institute Child Health and Security

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 保育士必修 》

1 年

担 当 者

東 島 明 子

授 業 到 達 標

1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
2. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。
3. 保育に関連する、アレルギー対応・感染症対策・事故防止及び事故発生時の対応、安全対策・危機管理等の各ガイドラインや近年のデータ等を踏まえた適切な対応について、具体的に理解する。
4. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。

授 業 内 容

1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
2. 子どもの体調不良等に対する適切な対応
3. 保育における健康及び安全の管理・感染予防対策
4. 保育における保健的対応
5. 健康及び安全の管理の実施体制

準 備 学 習 等 の 内 容

・日頃より、子どもをとりまくさまざまな環境や情報に目を向け、指導者としての観察力を身につけるよう心がけておきましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション 子どもの健康と保育の環境		
2	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康		
3	衛生管理		
4	事故防止および安全対策		
5	災害への備えと危機管理		
6	体調不良や障害が発生した場合の対応		
7	救急処置および救急蘇生術		
8	感染症の集団発生と予防		
9	保育における保健的対応の基本的な考え		
10	3歳未満児への対応		
11	個別的な配慮を有する子どもへの対応		
12	障害のある子どもへの対応		
13	職員間の連携・協働と組織的取り組み		
14	保育における保健活動の計画及び評価		
15	子どもを中心とした家庭、専門機関、地域との連携 まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
子どもの健康と安全 松田博雄、金森三枝 中央法規		ふくおか子育て支援ガイド 医療保育テキスト 保育所保育指針 各ガイドライン 他	筆記試験50% 演習やグループワークへの取組態度50%

保育内容総論

Content of Child Care and Education

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 保育士必修・幼稚園教諭必修 》

1 年

担 当 者

小 方 信 二

授 業 到 達 標 目

園生活において保育内容や保育方法の仕組みが子どもの発達をどのように支えているのかを学び理解する

授 業 内 容

保育の基本、保育内容、保育の方法について学び、総合的な保育の指導と援助のあり方について理解する

準備学習等の内 容

日頃から、問題意識を持ち、向上心を持って取り組んで下さい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	保育者になることと保育内容総論	
2	保育所、幼稚園の一日の流れと保育内容	
3	保育所保育指針に基づく保育の基本	
4	保育所保育指針における「育みたい資質・能力」とは	
5	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは	
6	乳幼児期の生活と保育内容	
7	養護及び教育が一体的に展開する保育	
8	環境を通して行う保育	
9	生活や遊びによる総合的な保育	
10	個と集団の発達を踏まえた保育	
11	長時間の保育	
12	特別な配慮を必要とする子どもの保育	
13	家庭・地域・小学校との連携を踏まえた保育	
14	保育の評価	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
特になし 授業で適宜プリントを配布します	保育内容総論 大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ編(ミネルヴァ書房) 幼稚園教育要領(平成29年3月告示、文部科学省)	筆記試験(40%)、レポート(10%)、課題、実技、受講態度(50%)

保育の計画と評価

Planning and Assessment of Childcare

《 2 単位(講義) / 1 年後期 / 保育士必修 》

1 年

担 当 者

城 真衣子

授 業 到 達 目 標

保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解し、保育の過程についてその全体構造を捉える。
全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。

授 業 内 容

子ども理解に基づく保育の計画・評価について、その意義と方法、構造について学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

実際に指導計画を作成していくためには、講義の内容を深く理解していく必要があります。予習、復習をしっかりと行うこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	保育における計画の意義		
2	日本におけるカリキュラムの基礎理論		
3	子ども理解に基づく保育の循環		
4	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ		
5	幼稚園の教育課程の編成の基本原則と方法		
6	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法		
7	幼稚園の指導計画の作成		
8	保育所・認定こども園の指導計画の作成		
9	保育の評価		
10	指導計画の書き方		
11	0 歳児の指導計画		
12	1～2 歳児の指導計画		
13	3～4 歳児の指導計画		
14	5 歳児の指導計画		
15	小学校との接続		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
新保育基本シリーズ「教育・保育カリキュラム論」 千葉武夫／那須信樹 編著 中央法規		保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領	授業への参加度・課題50% 試験50%

幼児と健康

Infant and Health

《 1 単位(講義) / 1 年後期 / 幼稚園教諭必修 》

担 当 者

手 嶋 孝 司

授 業 到 達 目 標

幼児期の発育・発達の特徴とその意味を理解して、子どもが健康で安全な生活を送るための知識を身に付ける。

授 業 内 容

心身の健康に関する領域「健康」の意義を捉える。幼児期の身体発達、運動発達、生活習慣の発達、心理的発達などを踏まえ、子どもを取り巻く現状、安全管理など理解を深める。

準 備 学 習 等 の 内 容

事前学習として授業前までに教科書を読み、「子どもの健康」に関する知識を再認識しておくこと。日頃から自分自身も生活リズムを整えて規則正しい生活ができるようにする。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	「健康」とは何か
2	子どもの心と体の健康／子どもにとっての健康の意味
3	子どもの「健康」を取り巻く現状と課題
4	子どもの心身の発育・発達／発育・発達の構成要因
5	幼児期の身体の特徴
6	幼児期の生理機能の発達
7	幼児期の運動発達の特徴／動作の獲得や運動能力の発達
8	幼児期の情緒・社会性の発達
9	幼児期の健康的な生活リズム
10	幼児期の基本的な生活習慣の形成
11	幼児期の運動遊び
12	幼児期の安全管理・安全教育
13	幼児期の健康管理・保健指導
14	子どもが健康で安全な生活を送るために
15	全体のまとめ

教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
保育内容健康(井狩芳子著、萌文書林)	幼稚園教育要領(平成29年3月告示文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示厚生労働省) 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(平成29年3月告示内閣府)	試験(50%)、課題(30%)、授業参加状況/学習態度等(20%)を基に総合評価する。

幼児と言葉

Infant and Language

《 1 単位(講義) / 1 年後期 / 幼稚園教諭必修 》

1 年

担 当 者

下 稻 美 里

授 業 到 達 目 標

本授業では、領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付けることを目標とする。

授 業 内 容

保育の事例を挙げ、実際の保育をイメージしながら、領域「言葉」における「言葉のもつ意義と機能」「言葉に対する感覚」「児童文化財」の3点の専門的事項について学ぶ。また、絵本や紙芝居の読み聞かせ(演習)を通して、領域「言葉」と保育者の役割について考える。

準 備 学 習 等 の 内 容

授業で学んだことについて復習を行い、次の授業に臨みましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション 幼稚園教育要領における幼児教育の基本
2	言葉のもつ意義と機能
3	子どもの言葉の発達過程①(0・1・2歳児)
4	子どもの言葉の発達過程②(3・4・5歳児)
5	領域「言葉」と保育の実際 ～事例をもとに考える～
6	言葉に対する感覚① ～言葉の美しさや楽しさを感じる～
7	言葉に対する感覚② ～子どもと楽しむ「言葉遊び」を考える～
8	言葉に対する感覚③ ～「言葉遊び」の実践(演習)
9	子どもにとっての児童文化財の意義
10	児童文化財の種類、歴史
11	児童文化財を用いた実践① ～絵本の読み聞かせ～(演習)
12	児童文化財を用いた実践② ～紙芝居を用いて～(演習)
13	演習(第11・12回)の振り返りと児童文化財の保育への取り入れ方
14	領域「言葉」のねらいと保育者の役割
15	授業のまとめ～言葉のもつ意義と機能、言葉に対する感覚、児童文化財の3点に着目して～

教科書(必須)

『保育者をめざす人の保育内容「言葉」第2版』(2018) 駒井美智子(編) 株式会社みらい

参考書・参考文献

幼稚園教育要領(平成29年、文部科学省)

評価基準

授業参加態度(グループ活動、発表等)(40%)、毎回授業の最後に提出する感想(15%)、最終レポート課題(45%)

幼児と表現

Infant and expression

1年

《 1単位(講義) / 1年後期 / 幼稚園教諭必修 》

担 当 者

平山 隆浩・四童子 薫

授 業 到 達 目 標

領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。

授 業 内 容

幼児期の表現について事例や画像資料等を使いながらレクチャーを行う。また授業を通して体験したことや考えたこと取り組んだ活動などをポートフォリオとしてまとめていくなど、活動しながら学ぶ授業とする。

準 備 学 習 等 の 内 容

日頃から、幼児と表現に興味関心を持ち、絵本やわらべ歌などの身近にある保育教材に目を向けるよう心がける。また、幼稚園教育要領解説は、授業前によく読み事前学習を心がける。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		担 当 者
1	領域「表現」の持つ意味について	平山
2	幼児の発達と素朴な表現について	〃
3	コミュニケーションとしての表現活動	〃
4	フォト・ラーニングによる幼児の表現研究	〃
5	様々な表現を組み合わせた表現活動の展開について	〃
6	五感と感性について	〃
7	保育教材としての自然（1）造形素材として	〃
8	保育教材としての自然（2）音風景について	四童子
9	音探しと音遊びについて	〃
10	わらべ歌遊びについて	〃
11	伝承遊びについて	〃
12	季節の行事と表現について	〃
13	表現の楽しさはどこから来るのか	〃
14	幼児の表現活動における保育者の役割	〃
15	半期の学びを振り返る	平山、四童子
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
幼稚園教育要領解説	保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 その他適宜資料を配布する。	学びのポートフォリオ（50%）、レポート試験（50%）

保育内容の理解と方法（ことば遊び）

Understanding and Method of Childcare Contents (Word Play)

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 保育士必修 》

1 年

担 当 者

川 崎 徳 子

授 業 到 達 標

- 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解し、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。
- 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。

授 業 内 容

- 子どもの生活と遊びにおける他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識と技術を学ぶ。
- 子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成と保育の展開に必要な知識と技術を学ぶ。
- 子どもの生活と遊びにおける様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解とその活用や作成に必要な知識と技術を学ぶ。(児童文化財…絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等)

準 備 学 習 等 の 内 容

- 日常において、様々な児童文化財に興味・関心をもっておくこと。
- 日常において、子どもの様子を観察しておくこと。(愛情と敬意をもって)
- 好きな絵本やお話を見つけ、また自分の得意とすること(読み聞かせ・人形劇等)を見出しておくこと。
- 児童文化財制作に必要な材料を整えておくこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ	
1	オリエンテーション・子どもの発達と児童文化財
2	児童文化財の楽しさと演じ方 (絵本)
3	〃 (紙芝居・ストーリーテリング)
4	〃 (人形劇・ペープサート・パネルシアター・エプロンシアター)
5	〃 (わらべうた・ことばあそび)
6	児童文化財制作 ① ・ストーリーテリングの実技 ①
7	〃 ② 〃 ②
8	〃 ③ 〃 ③
9	〃 ④ 〃 ④
10	〃 ⑤ ・作品発表
11	制作の実技 ① ・講評 ①
12	〃 ② 〃 ②
13	〃 ③ 〃 ③
14	〃 ④ 〃 ④
15	まとめ・レポート課題発表
教科書(必須)	参考書・参考文献
なし	<ul style="list-style-type: none"> ○保育所保育指針 ○幼稚園教育要領 ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ○制作・実技・レポート：80% ○授業態度：20%

保育内容の理解と方法（身体遊び）

Understanding and Method of Childcare Contents (Body play)

1年

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 保育士必修 》

担 当 者

太刀山 美 樹

授 業 到 達 標

子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な身体遊びを学び、現場で活躍できる魅力ある教師を目指す
1 わかりやすい伝え方をまず自ら実践できる
2 身体遊びを多く体験し、理解を深める
3 現場感覚をイメージし、身体遊びの展開ができる

授 業 内 容

- 1 自己表現 自分を知る他人を知る
- 2 理論 発育発達と年齢にあった身体遊び
- 3 実践 様々な身体遊び
- 4 確認 チェックテスト

準備学習等の内 容

今の自分の周りにある身体遊びにどのようなものがあるか、ピックアップしておく

授業計画等

授業テーマ

1	オリエンテーション 現場で必要とされる先生とは	
2	コミュニケーショントレーニング	
3	発育発達と身体遊び1	
4	発育発達と身体遊び2	
5	テスト 理論（発育発達 実技（リズムダンス）	
6	見立てごっこ遊び 道具を使って	
7	劇ステージ遊び	
8	キッズのためのダンス遊び	
9	キッズのための体育遊び	
10	モデルレッスン	
11	テスト対策	
12	テスト グループ	
13	テスト 個人	
14	まとめ	
15	教師として、自身の身体と心のケア	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
ファニットリズムでどうぶつ体操	子どものママのやってみたいを引き出す運動遊び集	授業態度 20% レポート 20% テスト 60%

保育内容の理解と方法（音遊び）

Understanding and Method of Childcare Contents（Sound Play）

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 保育士必修 》

1 年

担 当 者

森 久美子

授 業 到 達 標

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を習得する。

身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ体験と保育の環境を捉えて、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要な知識・技術を習得する。

授 業 内 容

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される音に親しむ体験を理解した上で、必要な知識・技術を実践的に学ぶ。

保育現場で活用できる表現あそび（手遊び・音楽あそび・歌や楽器あそび等）をとおして、保育の具体的展開のための技術を実践的に学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

日頃より身の回りにある身近な素材が、保育の中でどのように活用できるか、興味・関心をもっておこう。

日常にある音や様々なリズムに親しみをもっておこう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション～たのしい音遊びとは～		
2	コミュニケーションを育む音遊び①		
3	コミュニケーションを育む音遊び②		
4	音の出るお話をつくろう①		
5	音の出るお話をつくろう②		
6	つながり歌あそび①		
7	つながり歌あそび②		
8	身近な素材で手作り楽器をつくろう①		
9	身近な素材で手作り楽器をつくろう②		
10	身近な素材で手作り楽器をつくろう③		
11	身近な素材で手作り楽器をつくろう④		
12	手作り楽器を使って表現しよう①		
13	手作り楽器を使って表現しよう②		
14	まとめ①		
15	まとめ②		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
なし		「子どものためのたのしい音遊び－伝え合い表現する力を育む－」音楽之友社	課題（製作・発表及びレポート）80% 受講態度及び製作・発表への取り組み等 20%

保育内容の理解と方法（感覚遊び）

Understanding and Method of Childcare Contents（Sensory Play）

1年

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 保育士必修 》

担 当 者

下 稻 美 里

授 業 到 達 標

1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための必要な知識や技術を実践的に習得する。
2. 受講者は感覚を使った様々な遊びを体験し、感覚を豊かにする。

授 業 内 容

本授業は、「感覚」について考え、「感覚」を意識しながら、様々な子どもの遊びや活動を体験していく。また、教材・素材の研究を行いながら、その教材を使って具体的な保育実践の展開ができるよう技術を習得していく。

準 備 学 習 等 の 内 容

本授業で学んだことを復習し、次の授業に臨むようにしましょう。
感覚を研ぎ澄まし、意識しながら積極的に授業に取り組むこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション ～感覚とは～		
2	自然を取り入れた感覚遊び ～ネイチャービンゴ～		
3	自然を取り入れた感覚遊び ～におい探し～		
4	自然を取り入れた感覚遊び ～砂遊び・サンドアート～		
5	自然を取り入れた感覚遊び ～風を利用するおもちゃ作り～		
6	感触を楽しむ感覚遊び ～油粘土遊び～		
7	感触を楽しむ感覚遊び ～片栗粉粘土遊び～		
8	感触を楽しむ感覚遊び ～団子作り～		
9	感触を楽しむ感覚遊び ～フィンガーペインティング～		
10	音を取り入れた感覚遊び ～聴いた音をイメージした物作り～		
11	時間の感覚 ～遊びこむとは？～		
12	空間感覚 ～紙材を使ったお弁当作り～		
13	身体を動かして楽しむ感覚遊び ～手遊び・わらべうた～		
14	身体を動かして遊ぶ感覚遊び ～平衡感覚・固有感覚とは？～		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
なし		『保育所保育指針』(平成29年告示)厚生労働省、『幼稚園教育要領』(平成29年告示)文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年告示)内閣府・文部科学省・厚生労働省	受講態度(授業参加、発表等)40%、提出物20%、最終レポート課題40%

幼児教育方法論

Theory Infant Education Teacher

《 2単位(講義) / 1年後期 / 幼稚園教諭必修 》

1年

担 当 者

稲 田 義 邦

授 業 到 達 目 標

幼児期の教育方法の理論について学び、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて、子どもの生きる力の基礎を培うために、子どもの主体的な活動を援助する幼児教育の方法について理解する。

授 業 内 容

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について学び、社会の変革に即した保育の方法について考える。更に、幼児教育の基本について理解を深め、適切な指導方法や技術を学び、実践力を養うことを目的とする。また、幼児教育における特別支援教育や情報機器の活用についても考える。

準 備 学 習 等 の 内 容

「幼稚園教育要領解説」・「保育所保育指針解説」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」に目を通し、授業での深い理解につなげる。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス		
2	幼児期の教育方法		
3	幼児期の発達特性と援助		
4	環境を通しての保育		
5	遊びを通しての保育		
6	保育形態と援助方法		
7	幼児同士のトラブルと保育者の援助		
8	幼児教育における健康及び安全指導		
9	計画、実践、評価、改善におけるコンピュータを用いた保育の質の向上		
10	幼児教育における特別支援教育		
11	コンピュータやビデオによる教材作成と保育場面での活用方法		
12	幼児期の教育と小学校教育の連携		
13	家庭や地域との連携並びにコンピュータやスマートフォンを用いた連携方法		
14	保育者の研修と資質向上		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館 「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館		「保育・幼児教育方法」小田 豊・中坪史典 建帛社	筆記試験90%、受講態度10%

乳児保育 I

Education and Care for Infant and Young Child I

《 2 単位(講義) / 1 年前期 / 保育士必修 》

1 年

担 当 者

城 真衣子

授 業 到 達 目 標

乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について理解する。
 保育所、乳児院など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
 乳児の発達を踏まえた保育内容や保育運営の体制について理解する。
 乳児保育における職員間、保護者、地域の関係機関との連携や協働について理解する。

授 業 内 容

乳児保育の意義・目的・役割等の理解を深め、3歳未満児の発達を踏まえた保育内容や運営の実際を学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

実際に現場で乳児保育にあたるための重要な知識を学びます。後期の演習の土台となる知識を定着させるため、復習をしっかりと行うこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	乳児保育の意義	
2	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	
3	保育所における乳児保育	
4	保育所以外の児童福祉施設における乳児保育	
5	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育	
6	家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	
7	0歳児～満3歳児の生活と環境	
8	0歳児～満3歳児の遊びと環境	
9	0歳児～満3歳児の保育に移行する時期の保育	
10	0歳児～満3歳児の発達を踏まえた援助や関わり	
11	0歳児～満3歳児の発達を踏まえた保育における配慮	
12	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	
13	職員間の連携・協働	
14	保護者との連携・協働	
15	自治体や地域 関係機関等との連携・協働	
教科書(必須)		
参考書・参考文献		
評価基準		
「乳児保育」 大学図書出版	授業内で配布する資料	授業への参加度・課題・レポート 30% 試験 70%

乳児保育Ⅱ

Education and Care for Infant and Young Child Ⅱ

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 保育士必修 》

1 年

担 当 者

城 真衣子

授 業 到 達 目 標

養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について・乳児保育の実際について・指導計画についてを具体的に理解する。

授 業 内 容

前期で学んだ乳児保育の目的や意義、発達や保育内容等の理解を踏まえ、実践を通してより具体的に学び身につける。

準備学習等の内 容

実技学習においては積極的に参加できるよう、事前に必要な準備をしっかりとこなう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	乳児保育の基本		
2	0歳児クラスの生活の流れ		
3	0歳児クラスの保育環境		
4	0歳児クラスの援助の実際		
5	1歳児クラスの生活の流れ		
6	1歳児クラスの保育環境		
7	1歳児クラスの援助の実際		
8	2歳児クラスの生活の流れ		
9	2歳児クラスの保育環境		
10	2歳児クラスの援助の実際		
11	心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮		
12	集団での生活における配慮		
13	環境の変化や移行に対する配慮		
14	長期的な指導計画と短期的な指導計画		
15	個別的な指導計画と集団の指導計画		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「乳児保育」 大学図書出版		授業内で配布する資料	授業内ワークシート・課題 60% 筆記試験 40%

障害児保育 I

Care for Children with Disabilities I

1年

《 1単位(演習) / 1年前期 / 卒業必修・保育士必修 》

担 当 者

小 堀 晶 弘

授 業 到 達 目 的

障害児保育は、保育士が子どもの看護の部分も引き受けることがあり、障害に関する基礎理解・保育技法・家族への支援方法を習得する。また、医療・福祉等の関係機関との連携について学ぶ。

授 業 内 容

1. 障害児保育を支える理念と歴史の変遷について学ぶ。
2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助方法、環境構成等について学ぶ。
3. 障害のある子どもの保育計画を作成し、個別支援の方法を理解する。
4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。
5. 保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。

準 備 学 習 等 の 内 容

積極的にボランティア活動に参加し、障害について理解する。
障害に関連する書籍を読む。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション		
2	障害児保育の歴史の変遷		
3	障害児保育制度の現状（自立支援医療・育成医療）		
4	障害に関する基礎理解と保育技法(1) 視覚障害		
5	障害に関する基礎理解と保育技法(2) 聴覚障害		
6	障害に関する基礎理解と保育技法(3) 肢体不自由児		
7	障害に関する基礎理解と保育技法(4) 重症心身障害		
8	障害に関する基礎理解と保育技法(5) 内部障害		
9	障害に関する基礎理解と保育技法(6) 知的障害		
10	障害に関する基礎理解と保育技法(7) 放課後児童クラブ他		
11	障害児保育実践の展開(1) 指導計画の作成と記録		
12	障害児保育実践の展開(2) 保護者への支援・ペアレント・トレーニング・地域発達支援ネットワークづくり		
13	障害児保育実践の展開(3) 職員間の協働・環境整備・仲間づくり		
14	障害児保育の課題と対策		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
なし		『よくわかる障害児保育』 尾崎康子他 ミネルヴァ書房	筆記試験70% 受講態度30%

子どものためのピアノ表現 I

Piano I

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 卒業必修 》

1 年

担 当 者

吉原美南子・四童子薫・加藤みゆき・巢山千恵・小柳厚子・水崎玄・横須賀紋子

授 業 到 達 標

幼児の音楽教育の中で必要となるピアノ演奏についての基礎知識・基礎技術を習得し、バイエル教則本終了程度の演奏技術を身につけることを目的とする。

授 業 内 容

ピアノの基礎的な演奏技術を養うために、グループレッスンと個人レッスン（1 クラスを 5～6 名のグループに分け、グループそれぞれの教室でレッスンを受講する）を並行して実施する。ピアノを演奏することをとおして、楽譜の読み方や拍・リズムの考え方を学び、基本的な指の動かし方など演奏技術を養う。ピアノの技術を習得していく中で、「できるようになる」喜びや音楽表現の楽しさを感じてほしい。

準 備 学 習 等 の 内 容

ピアノの技術の習得のためには、週に 1 度の授業（レッスン）だけでは不十分である。授業以外でピアノと向き合う時間を確保し、レッスンのための予習・復習を必ず行うこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション	
2	ピアノの個人レッスン① 弾き歌いのグループレッスン①	
3	ピアノの個人レッスン② 弾き歌いのグループレッスン②	
4	ピアノの個人レッスン③ 弾き歌いのグループレッスン③	
5	ピアノの個人レッスン④ 弾き歌いのグループレッスン④	
6	ピアノの個人レッスン⑤ 弾き歌いのグループレッスン⑤	
7	ピアノの個人レッスン⑥ 弾き歌いのグループレッスン⑥	
8	中間発表会	
9	ピアノの個人レッスン⑦ 弾き歌いのグループレッスン⑦	
10	ピアノの個人レッスン⑧ 弾き歌いのグループレッスン⑧	
11	ピアノの個人レッスン⑨ 弾き歌いのグループレッスン⑨	
12	ピアノの個人レッスン⑩ 弾き歌いのグループレッスン⑩	
13	ピアノの個人レッスン⑪ 弾き歌いのグループレッスン⑪	
14	弾き歌いの発表会	
15	ピアノ表現のまとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
『教職課程のための大学ピアノ教本—バイエルとツェルニーによる展開』 (教育芸術社)	必要に応じて資料を配付する。	毎週の課題への取り組みおよび中間発表会 (50%)、 実技試験 (50%)

子どもと音楽表現 I

Music Expression for Children I

《 1 単位(演習) / 1 年前期 》

1 年

担 当 者

吉原美南子・四童子 薫

授 業 到 達 目 標

子どもたちが音楽の喜び、楽しさを実感し得る表現活動に必要な知識、技術の習得、及び保育環境の構成とその具体的展開における技術の習得。心を育む表現活動におけるレパートリー充実と実践力の習得を目指す。

授 業 内 容

子どもの発達に即した音楽表現に関する知識と技能を、実践を通して習得する。子どもの歌等を通して感じ得る身近な自然、その音の成り立ちに親しみ、音楽の持つ力、心を育む音楽表現を体得し、表現活動を自ら展開し得る実践力を培い、保育現場で必須のピアノ演奏の基本的な技術を習得する。

準 備 学 習 等 の 内 容

子どもたちと楽しめる音楽表現力を身につけるためには、自らの日々の鍛錬が必須となります。日常の音や様々なリズムに親しみ、安定した音程感覚やリズム感覚を磨くためにも、毎日の努力を惜しまず、ピアノの練習にも励み、楽しい音楽表現を目指して下さい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	音楽表現に必要な要素 楽典・ソルフェージュ	ピアノレッスン①
3	生活の歌①	ピアノレッスン②
4	生活の歌②	ピアノレッスン③
5	季節の歌①	ピアノレッスン④
6	季節の歌②	ピアノレッスン⑤
7	季節の歌③	ピアノレッスン⑥
8	中間発表会	
9	リズム楽器①	ピアノレッスン⑦
10	リズム楽器②	ピアノレッスン⑧
11	リトミック①	ピアノレッスン⑨
12	リトミック②	ピアノレッスン⑩
13	音楽表現まとめ	ピアノレッスン⑪ まとめ
14	ピアノ発表会	
15	音楽表現発表会	
教科書(必須)		評価基準
「こどものうた大百科」松山祐士著 ドレミ楽譜出版 「教職課程のための大学ピアノ教本-バイエルとツェルニーによる展開」教育芸術社		必要に応じて資料を配付する。 試験(ピアノ実技を含む)50%、受講態度(レッスンノートを含む)50%

子どもと造形表現 I

Basic Art Works I

《 1 単位(演習) / 1 年前期 》

1 年

担 当 者

平 山 隆 浩

授 業 到 達 目 標

日常生活の中で、それを初めて見る子どものように、感じたり考えたりできる、柔軟な感性と創造的思考力を身につけることを目標とする。更に、自分らしい表現方法を見つけ、モノを創ることへの理解を深めることを目標とする。

授 業 内 容

Play with Materials (素材との戯れ) をキーワードに、「絵を描く」「ものをつくる」とは何か、その原点に立って考えを深めつつ、基礎技法と基礎技術の習得を目指し授業を展開する。また、子どもの発達と造形表現に関する知識についても適宜レクチャーを行う。

準備学習等の
内 容

日頃から、ゆっくり・のんびり・じっくりと「五感」を働かせ、さまざま「美」を探し、カメラなどで記録し感性を豊かにしていく。
また、美術館や画廊などを巡り絵画や彫刻などの鑑賞を通して文化に触れていく。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	ARTing という世界	
2	ヘンテコ自画像の制作	
3	エコバックのデザイン	
4	絵の具遊び - 技法の研究 -	
5	カラフルちょうちょの制作	
6	虹の世界を描こう	
7	葉っぱを使った表現	
8	楽器を作ろう	
9	紙コップ人形の制作	
10	折り紙遊び	
11	動くおもちゃの制作	
12	コラージュ	
13	かざぐるまの制作	
14	学びのアート図解作成	
15	幼児と造形表現について	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
なし	「すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現」 平田智久・小野和編著 保育出版社	作品課題60%・レポート課題20% 課題への取り組み(積極性・意欲など)20%

保育園芸

Child-Care Horticulture

《 1 単位(演習) / 1 年前期 》

1 年

担 当 者

藤 原 良 治

授 業 到 達 標 目

植物とふれあい親しみ、植物を育む心と園芸に関する基本を習得することを目的とします。

授 業 内 容

授業は講義と実習を交えて行います。内容は、草花・野菜の栽培を通して植物のしくみ、ふれあう楽しさ、大切さ、環境に配慮した育成等について学習していきます。授業の後半の週は、子供と植物とのかかわりについて取り組んでいきます。季節に応じて進めていきますので、春～初夏の栽培が中心となります。実習場所は主に屋上花壇と正面玄関の周辺を利用します。

準 備 学 習 等 の 内 容

数多くの植物とふれあって観察を行い、植物の名前、性質、特徴を理解して、一つでも多くの植物を覚えていきましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	植物観察及び植物の仕組みについて	
2	植物の生育土壌について	
3	草花栽培①	
4	〃 ②	
5	〃 ③	
6	〃 ④	
7	植物の生育環境について	
8	ハーブ・野菜の栽培①	
9	〃 ②	
10	植物を利用したクラフト遊び①	
11	〃 ②	
12	ビオトープについて	
13	子どもと園芸①	
14	〃 ②	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
なし	「別冊 NHK 趣味の園芸 園芸入門」 「園芸リハビリテーション」	授業態度50% 試験50%によって総合的な評価を行います。

保育所実習 I

Practical Training on Education and Care for Children I

《 2 単位(実習) / 1 年後期 / 保育士必修 》

1 年

担 当 者

四童子 薫

授 業 到 達 標

実習の中で保育所の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。

授 業 内 容

既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育および保育者への支援について10日間の実習を通して総合的に学び、保育の計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解する中で、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

保育所実習は、大学で学んだ教科全体の知識・技能を基礎とし、総合的に実践する応用能力を養う場であるため、大学での1つひとつの授業を大切に、保育にかかわる知識・技能の習得を目指すこと。また、保育所実習 I の心構えや実習での学びのポイントは「保育実習指導 I A・I B」の授業で取り扱うことになる。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所の生活と一日の流れ
2	(2) 保育所保育指針の理解と保育の展開
3	2. 子どもの理解
4	(1) 子どもの観察とその記録による理解
5	(2) 子どもの発達過程の理解
6	(3) 子どもへの援助や関わり
7	3. 保育内容・保育環境
8	(1) 保育の計画に基づく保育内容
9	(2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
10	(3) 子どもの生活や遊びと保育環境
11	(4) 子どもの健康と安全
12	4. 保育の計画、観察、記録
13	(1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解
14	(2) 記録に基づく省察・自己評価
15	5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
	(1) 保育士の業務内容
	(2) 職員間の役割分担や連携・協働
	(3) 保育士の役割と職業倫理
	上記の内容を2月に10日間の実習で学ぶ。 実習場所は保育所にて実施する。

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」
小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社

実習先からの評価(70%)
実習の直前指導・事後指導・実習報告会・提出物(30%)

施設実習 I

Practice in Institutional I

《 2単位(実習) / 1年後期 / 保育士必修 》

1年

担 当 者

小 堀 晶 弘

授 業 到 達 標

施設実習 I では、保育、教育、福祉に関わる全ての知識や技術をもとに総合的に実践を通して、施設の業務、役割等について理解を深める。

授 業 内 容

1. 施設が、専門分化した機能を担っていることを理解する。
2. 施設の利用者について理解する。
3. 施設で働く職員の業務について理解する。
4. 関連する機関との連携について理解する。
5. 職員間の連携、人間関係のあり方について理解する。

準 備 学 習 等 の 内 容

施設のビデオを見て事前に学習する。
施設の概要について事前に学習する。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	【期間】 11月に10日間実施する。	
2		
3	【実習場所】	
4	乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、児童自立支援施設、知的障害児通園施設、肢体不自由児通園施設、盲ろうあ児施設、重症心身障害児施設等（保育所は除く）の児童福祉施設または、知的障害者施設等の障害者施設に	
5	おいて実施する。	
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
なし	施設実習ガイド 駒井美智子編 著 萌文書林	実習先評価結果(70%) 実習日誌内容、提出物、実習報告内容(30%)

保育実習指導 I A

Child Care Teaching Instruction I A

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 保育士必修 》

1 年

担 当 者

吉原美南子・下稻 美里

授 業 到 達 目 標

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の直前指導及び事後指導を通して、実習への心構えを新たに、総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授 業 内 容

施設実習 I、保育所実習 I および選択実習 II に行くための、基本的なマナーおよび知識を身につける。その実践として、一日見学実習（保育所・施設）に向けての準備や事前オリエンテーション、そして当日の実習を経験することを通して、実習というものの在り方を理解する。

準 備 学 習 等 の 内 容

実習、資格に関わる授業です。様々な提出物があります。一つ一つを丁寧に確認し、各自の責任において、期限を守って提出すること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション	
2	実習の意義と目的	
3	実習の方法	
4	保育所についての理解	
5	施設についての理解	
6	施設 I ・ 保育所 I 実習報告会参加	
7	名札作成について	
8	保育所・施設一日見学実習について	
9	一日見学実習に必要な手続き①	
10	一日見学実習に必要な手続き②	
11	一日見学実習に必要な手続き③	
12	実習日誌について①	
13	実習日誌について②	
14	一日見学実習 直前指導	
15	施設・保育所 一日見学実習	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
「幼稚園・保育所実習・認定こども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子著 わかば社	適宜、資料を配付する。	提出50%、授業態度30%、書類の手続き20%

保育実習指導 I B

Child Care Teaching Instruction I B

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 保育士必修 》

1 年

担 当 者

小堀 晶弘・吉原美南子・四童子 薫・下稻 美里

授 業 到 達
目 標

1. 保育実習の意義と目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。

授 業 内 容

1. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について学ぶ。
2. 実習の計画、実践、観察、記録、評価方法や内容について学ぶ。
3. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行う。
4. 新たな課題や学習目標を明確にする。

準備学習等の
内 容

前期の保育実習指導 I A の内容を復習しておく。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション
2	施設実習 I の概要
3	施設の概要、日誌の書き方①
4	施設の概要、日誌の書き方②
5	施設の概要、日誌の書き方③
6	施設種別指導①
7	施設種別指導②
8	施設実習指導 I 直前指導
9	保育所実習 I の概要
10	実習日誌①
11	実習日誌②
12	実習日誌③
13	指導案の書き方①
14	指導案の書き方②
15	まとめ

教科書(必須)

施設実習ガイド 駒井美智子編
著 萌文書林

参考書・参考文献

「幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド」小櫃智子著 わかば社

評価基準

レポート課題 (50%)、受講態度 (30%)
実習に行くにあたり必要な書類の手続き (20%)

教育実習指導 I

Practice Teaching Instruction I

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 幼稚園教諭必修 》

1 年

担 当 者

余公 裕次・稲田 義邦・平山 隆浩

授 業 到 達
目 標

「幼稚園一日実習の見学・観察」を踏まえて、幼稚園教育について理解し、幼稚園教諭としての姿勢を学ぶ。

授 業 内 容

教育実習の意義と目的、実習生の心構えなどを理解し、事前訪問についての礼儀などの確認、また、「一日見学実習」を通して、子どもの活動を発達・生活・保育内容と関連して学び、子どもの活動と園生活全体を理解する。

準備学習等の
内 容

設定保育の指導計画の作成をしたり、教材研究などをし、幼稚園教育の理解を深める。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1. 幼稚園・保育所・認定こども園について
2. 教育実習の意義と目的／幼稚園の一日の流れ
3. 実習生の心得
4. 事前訪問について
5. 幼稚園教諭の仕事
6. 実習の自己課題設定
7. 教育実習の実際について
8. 実習日誌の記入について
9. 保育実技について
10. 幼稚園一日見学実習直前指導
11. 幼稚園一日見学実習
12. 幼稚園一日見学実習報告会準備
13. 幼稚園一日見学実習報告会
14. 本実習に向けた自己課題設定
15. まとめ

教科書(必須)

実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド 著者代表 小櫃智子 わかば社

参考書・参考文献

幼稚園教育要領解説
幼稚園・保育所実習 パーフェクトガイド 著者代表 小櫃智子 わかば社

評価基準

一日見学実習・報告会(70%)、事前実習指導・事後実習指導への取り組み(30%)等を総合して評価します。

学外文化研修

Education for Foreign Culture

《 2単位(演習) / 1年後期 》

1年

担 当 者

富 永 明 子

授 業 到 達 目 標

学外（国内または海外）研修旅行を通して、その場所でしか学べないものを体験し広い知識を身につける。また、異文化を体験することによりお互いを理解し合うコミュニケーション能力を高め、人として広い視野を持った保育者を目指す。

授 業 内 容

事前研修 訪問する地域・施設の保育及び幼児教育事情や文化等を調べる。
研修旅行 4日～8日程度の学外（国内または海外）研修旅行を実施する。
事後研修 事前研修から研修旅行を通して、調査・体験したものをレポートにまとめる。

準 備 学 習 等 の 内 容

研修の際、積極的に現地の人たちとコミュニケーションを図り学びを深めるためにも、日頃、授業で学んでいることを整理し、現地での体験や交流に備えることが大切です。また、授業外でも目的地の情報をしっかり集めたり調査するなどして、研修に備えましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	事前研修		
2	々		
3	々		
4	学外研修		
5	々		
6	々		
7	々		
8	々		
9	々		
10	々		
11	々		
12	々		
13	事後研修		
14	々		
15	々		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
なし		各研修地のガイドブック、並びにインターネットによる調査	学外研修への参加態度（積極性やマナーなど）50％・事前研修25％・事後研修（課題の提出等）25％

児童館・放課後児童クラブの機能と運営

Function and Administration of Children's house and after school children club

《 2 単位(講義) / 1 年後期 》

1 年

担 当 者

岩 崎 由 樹 巳

授 業 到 達 標

- ①現代の子ども達の健全育成上の課題と発達における遊びの意義を理解する。
- ②児童館、放課後児童クラブの活動について理解し、指導的役割が担える基礎力量をつけることを目指す。

授 業 内 容

- ①児童館の法的根拠（児童館ガイドライン等）から、施設の特徴や規模、機能と運営その留意点など、児童館の展望と課題を学ぶ。
- ②放課後児童クラブの法的根拠から、事業概要や運営上の留意点など放課後児童クラブの課題と展望を学ぶ。
- ③パワーポイントや、DVDなどで児童館や放課後児童クラブの現状を示しながら講義を進める。

準 備 学 習 等 の 内 容

日頃から現代の子ども達の状況を把握するために、さまざまなマスメディアを利用して情報収集しておくこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション		
2	放課後の子どもたちの居場所を考える		
3	子どもの遊びと発達		
4	児童館・放課後児童クラブの概要		
5	児童館ガイドライン		
6	児童館の機能と運営 ①小学生対応		
7	児童館の機能と運営 ②子育て支援		
8	児童館の機能と運営 ③中高生世代への対応		
9	放課後児童クラブの運営指針について		
10	児童館・放課後児童クラブの安全管理		
11	児童館・放課後児童クラブの地域との関わり		
12	児童厚生員・放課後児童クラブ指導員の役割①		
13	児童厚生員・放課後児童クラブ指導員の役割②		
14	児童館・放課後児童クラブのこれから		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
児童館論 一般財団法人 児童健全育成推進財団		適宜	筆記試験(70%) レポート、受講態度など(30%)で総合的に評価する

レクリエーション概論

Introduction to Recreation

《 2 単位(講義) / 1 年後期 》

1 年

担 当 者

手 嶋 孝 司

授 業 到 達 目 標

日本レクリエーション協会では、レクリエーションという言葉の主旨(目的)を「心を元気にすること」と定義しています。インストラクターはレクリエーション活動の楽しさを理解し、その楽しさをとおして人々が心を元気にできるように手助けする役割であることを理解する。

授 業 内 容

- ・ 楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気
- ・ コミュニケーションと信頼関係づくりの理論
- ・ 良好な集団づくりの理論
- ・ 自主的、主体的に楽しむ力を高める理論

準 備 学 習 等 の 内 容

インストラクターに求められる最も重要な資質は、「相手と同じ考えを共有する」コミュニケーション能力です。日頃からボランティア活動やイベントへ積極的に参加することを心がけましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション/資格取得について
2	レクリエーション概論/レクリエーション支援とは
3	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気
4	ライフステージと心の元気づくり
5	子どもを育む地域のきずな
6	レクリエーション支援の理論
7	コミュニケーションと信頼関係づくり
8	レクリエーション活動とおした良好な集団づくり
9	集団内のコミュニケーションの促進
10	自主的、主体的に楽しむ力を育む
11	やる気の変化とやる気が生じる心の仕組み
12	成功体験を支え合う対象者のかかわり
13	レクリエーション支援の方法
14	あたたかくもてなす意識と配慮/気持ちをひとつにするコミュニケーション技術
15	まとめ

教科書(必須)

楽しさをとおした心の元気づくり
レクリエーション支援の理論と方法(日本レクリエーション協会)

参考書・参考文献

評価基準

①レポート課題50%②授業中の提出物(30%)③授業参加状況20%を基に総合評価する。

日本国憲法

Constitution of Japan

《 2単位(講義) / 2年後期 / 幼稚園教諭必修 》

担 当 者

後 藤 啓 倫

2年

授 業 到 達 目 標

1. 日本国憲法に関する基本的な知識や考え方を習得すること
2. 習得した知識や考え方に基づいて、憲法について論理的、多角的に考えることができようになること

授 業 内 容

憲法の内容は、総論、人権論、統治機構論に分類されます。本講義では、人権論を中心に、具体的な事例を取り上げながら、解説を行います。
また、最近は憲法をめぐる議論が活発になってきていますので、その動向についても紹介していきます。

準 備 学 習 等 の 内 容

日本国憲法に関する議論がテレビや新聞でたびたび報じられていますので、それらに積極的に目を向けるようにしてください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	ガイダンス	
2	基本的人権とは何か？胎児に人権はあるのか？	
3	人権の享有主体（1）子どもの人権	
4	人権の享有主体（2）外国人の人権など	
5	憲法13条の幸福追求権 新しい人権、自己決定権など	
6	憲法14条の法の下での平等 合理的差別など	
7	人権の分類 自由権・社会権・参政権・国務請求権	
8	精神的自由権 信教の自由・表現の自由など	
9	経済的自由権・身体的自由権	
10	社会権（生存権・教育を受ける権利・労働基本権）	
11	参政権・国務請求権	
12	国会（立法権）	
13	内閣（行政権）・裁判所（司法権）	
14	9条戦争放棄と憲法改正	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
なし	初宿正典ほか編著『目で見る憲法 第5版』有斐閣、2018年	筆記試験（70%）と受講態度（30%）から総合的に評価します。

英語 I

English I

《 1 単位(演習) / 2 年前期 》

2 年 担 当 者

富 永 真 子

授 業 到 達 標

日常会話は、中学までに学ぶ基礎文法や単語で十分話すことができます。
日常生活に必要な表現を自分のものとしていくことで、英文の法則を意識しながら効率よく学び
苦手意識をなくす。

授 業 内 容

日常会話でよく使う表現の「文型（変化しない骨組みの部分）」を多くあげ、自分で文を組み立
てる練習を楽しく行っていきます。
input（読む、聞く）重視になりがちな「教科書使用」の授業ではなく、output（話す、書く）
重視で「声に出して伝える」スキルを伸ばす授業を行う。

準 備 学 習 等 の 内 容

復習の徹底。
毎回授業の始めに前回の授業の復習確認を行います。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション		
2	Classroom language and Greetings		
3	一般動詞と Be 動詞を区別する（主語 + 動詞の法則）		
4	練習		
5	時制（現在形、過去形、現在進行形、過去進行形）		
6	練習		
7	文の種類（肯定文、否定文、疑問文）		
8	練習		
9	頻度の高い動詞句（希望・予定・強制）		
10	練習		
11	接続詞で短文を繋ぐ		
12	練習		
13	疑問詞を使う疑問文		
14	練習		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
教科書なし 必要に応じてプリント配布		「英会話の基本文型87」	平常点（70%）+ 期末テスト（30%）

英語Ⅱ

English II

《 1 単位(演習) / 2 年後期 》

担 当 者

富 永 真 子

2 年

授 業 到 達 標 目

学習指導要領の改訂により、小学校の英語教育改革が始まり、就学前の園児の英語教育を注目されてきています。園児を指導するにあたり、ネイティブに近い発音、英語圏の多様な知識・文化の習得が必要です。言語としてだけの英語ではなく、授業を通じて一人一人が自信を持って指導する側に立てるようになることを目標とします。

授 業 内 容

フォニックス(英語圏の子供達が、読み書きを身につけるための学習法)を学習することで、ローマ字英語にならないよう徹底指導。
英語Ⅰで学習した基礎文法を応用し、各自オリジナルの対話を英作。それらを、自然な発音とスピードでロールプレイ演習を行い、Speaking を重視した授業を行う。

準 備 学 習 等 の 内 容

復習の徹底
毎回授業の始めに前回の授業の復習確認を行います。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	日本語「50音」と英語の音の違い(フォニックスとは)	
2	練習	
3	Self introduction I (対話形式自己紹介)	
4	Self introduction II (スピーチ形式自己紹介)	
5	What's up (話しかける)	
6	ロールプレイ演習	
7	Asking a favor (頼み事をする、依頼、お願いをする)	
8	ロールプレイ演習	
9	Reccomendation (おすすめする、助言する)	
10	ロールプレイ演習	
11	Describing characters (人物の性格を伝える)	
12	ロールプレイ演習	
13	Asking experiences (経験をたずねる、～した事ありますか?)	
14	ロールプレイ演習	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
教科書なし 必要に応じてプリント配布	「英語授業の大江・小枝」	平常点(70%)+期末テスト(30%)

中国語 I

Chinese I

《 1 単位(演習) / 2 年前期 》

2 年 担 当 者

藤 井 芳 子

授 業 到 達 目 標

日本人にとって、中国語の発音はとても難しいです。中国（歴史、太極拳、パンダなど）に興味のある人や、中国語を使って、仕事をしたい人など、中国語を学ぶ目的は様々です。①検定試験を受けて、将来の仕事に生かす、②中国圏の友人と自然に交流する。などの明確な目標を定め、基礎能力を身につけましょう。

授 業 内 容

中国語は、音楽のように美しい言語ですが、漢字（音・訓読み）ひらがな、カタカナのある日本語と違って、漢字の音読みだけでコミュニケーションを取る言語ですので、発音はとても大切です。自宅学習では難しい字の書き方や、発音の練習をしっかりとやります。

準 備 学 習 等 の 内 容

授業の内容をしっかりと修得するには、復習が大事です。与えられた宿題をやりながら、しっかり記憶に留め、次回の授業が楽しくなるように、つなげましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション・授業内容説明	
2	中国の漢字を覚えるコツと発音の特徴 ☆数字について	
3	中国語のしくみ（小テスト1） ☆発音の練習	
4	基本の表現 ①動詞“是”を使う。（第1課）はじめまして。	
5	②動詞“有”を使う。（第2課）お名前は？	
6	③動詞“在”を使う。 ☆自己紹介の練習	
7	④動詞“要”を使う。（第3課）あなたは学生ですか？	
8	（小テスト2）⑤助動詞“能”を使う。（第4課）ようこそ、いらっしゃい！	
9	⑥助動詞“会”を使う。（第5課）これは私の名刺です。	
10	⑦助動詞“可以”を使う。（第6課）さようなら。	
11	⑧助動詞“要”を使う。（第7課）私は東京出身です。	
12	⑨助動詞“想”を使う。（第8課）何人家族ですか？	
13	（小テスト3）⑩形容詞	
14	総復習	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
①中国語 話す・聞く簡単入門書（高田裕子著・池田書店） ②簡体字・練習帳（アスク出版）	中国語の文法書（株・同学社）	期末試験50%、宿題・復習30%、小テスト20%

中国語Ⅱ

Chinese Ⅱ

《 1 単位(演習) / 2 年後期 》

担 当 者

藤 井 芳 子

2 年

授 業 到 達 目 標

日本人にとって、中国語の発音はとても難しいです。中国（歴史、太極拳、パンダなど）に興味のある人や、中国語を使って、仕事をしたい人など、中国語を学ぶ目的は様々です。①検定試験を受けて、将来の仕事に生かす、②中国圏の友人と自然に交流する。などの明確な目標を定め、基礎能力を身につけましょう。

授 業 内 容

中国語は、音楽のように美しい言語ですが、漢字（音・訓読み）ひらがな、カタカナのある日本語と違って、漢字の音読みだけでコミュニケーションを取る言語ですので、発音はとても大切です。自宅学習では難しい字の書き方や、発音の練習をしっかりとやります。

準 備 学 習 等 の 内 容

授業の内容をしっかりと修得するには、復習が大事です。与えられた宿題をやりながら、しっかり記憶に留め、次回の授業が楽しくなるように、つなげましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	前期の授業の内容を復習		
2	場面別会話練習 (第1課)	両替したいんですが。	
3	(小テスト1) (第2課)	あのコートを見たいんですが。	
4		(第3・4課) 全部でいくらになりますか？	
5		(第5・6課) ショッピングモールはどこですか？	
6		(第7・8課) 目薬を買うつもりです。	
7		(第9・10課) いらっしゃいませ！	
8	(小テスト2) (第11課)	テイクアウトですか？	
9	観光 (第1・2課)	北京飯店までお願いします。	
10		(第3・4課) 1日チャーターするといくらですか？	
11		(第5・6課) ここで待っていますね。	
12	トラブル (第7・8課)	どうしよう！	
13	(小テスト3) (第9課)	盗まれました。	
14	総復習		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
①中国語 話す・聞く簡単入門書 (高田裕子著・池田書店) ②簡体字・練習帳 (アスク出版)		中国語の文法書 (株・同学社)	期末試験50%、宿題・復習30%、小テスト20%

幼児教育教師論

Teacher theory of Early childhood education

《 2 単位(講義) / 2 年後期 / 幼稚園教諭必修 》

2 年 担 当 者

太刀川 春 美

授 業 到 達 標 目

幼稚園教諭という実践者としての教師の成長や生き方について、自分なりの考え方を構築し深める。

授 業 内 容

これまでの教師論や教師教育研究の成果を題材に、幼稚園教諭として必要な教養や力量についての様々な議論の中から、現代社会で求められている教師の有り方を考える。

準 備 学 習 等 の 内 容

幼稚園教育要領解説の「教師の役割」のところを読んで、授業にのぞみましょう。小レポートの課題もあります。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	「教師観」についての討論
2	近代学校教育に誕生した「教師」という職業について
3	教師の職務に関する議論や問題点
4	わが国の教師教育の展開（歴史・制度・現状・課題など）
5	教師の子ども像（1）
6	教師の子ども像（2）
7	学級経営について（1）
8	学級経営について（2）
9	教師の成長の研究（1）
10	教師の成長の研究（2）
11	教師のバーンアウトについて
12	保育者として生きることについて（1）
13	保育者として生きることについて（2）
14	現代の幼稚園教諭の課題・資質・力量について
15	まとめ

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

幼稚園教育要領解説

授業に必要な書籍は適宜紹介し、資料を配布する。

授業の参加度 30%
試験 70%

相談援助

Consultation and Support for Parents

《 1 単位(演習) / 2 年後期 / 保育士必修・幼稚園教諭必修 》

2 年

担 当 者

余 公 裕 次

授 業 到 達 目 標

- 1 保育の専門職として必要な相談援助の理論、意義、機能などを理解する。
- 2 事例検討などを通して、基本的な相談援助の技術の習得を目指す。
- 3 相談援助を行うにあたり、関係諸機関との連携や協働、或いは社会資源の活用方法などを理解する。

授 業 内 容

相談援助の基礎基本を学ぶとともに、保育者としてどのように子どもや保護者と関わっていけばよいのかを、講義や演習を通して理解する。実際に保育の場で対応できるように、グループディスカッションを行うなど、他の意見もよく聞きながら学ぶなど、実践的に考える力を身に付ける。

準 備 学 習 等 の 内 容

予め、教科書の該当箇所を読み、予習をして授業に臨む。
乳幼児を取り巻く環境等に留意し、乳幼児期の課題等を新聞や報道から、把握しておく。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション (授業の目的、評価方法、授業の進め方及びグループ編成)	相談援助の理論
2	相談援助の意義	
3	相談援助の機能	
4	相談援助とソーシャルワーク	
5	保育とソーシャルワーク	
6	相談援助の対象	
7	相談援助の過程	
8	相談援助の技術・アプローチ	
9	相談援助の計画・記録・評価	
10	相談援助の関係機関との協働・多様な専門職との連携	
11	相談援助の社会資源の活用、調整、開発	
12	虐待の予防と対応等の事例分析	
13	ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析	
14	障害のある子どもとその保護者への支援等の事例分析	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
松原康雄、村田典子、南野奈津子編集『相談援助』中央法規、2015年。	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018年 内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年	平常点20% レポート提出20% 筆記試験60%

教育心理学

Educational Psychology

《 2単位(講義) / 2年前期 / 幼稚園教諭必修 》

2年 担 当 者

富 永 明 子

授 業 到 達 目 標

教育に関することから心理学の知をもって解明する学問が教育心理学ですが、授業においては幼児教育において必要な教育心理学の知識と考え方を学びます。基礎知識を獲得したうえで、幼児教育の現場における事象を、自ら読み解き有用な実践に結びつけることができる力の養成を目標とします。

授 業 内 容

子どもの生活における象徴的な場面について考察することを通して、心理学的なとらえ方、理解のしかたを身につけます。保育者として適切かつ質の良い実践ができるよう、事例について自分自身の意見を持ち、さらに他者の意見を検討することによって、多面的なものの見方を身につけ、理解を深めます。

準 備 学 習 等 の 内 容

事前にテキストを読み、予習することを心がけてください。受け身にならず、積極的関心をもって主体的に授業に臨みましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション／教育心理学とは何か
2	子どもの育ちについて（1）発達段階・発達課題
3	子どもの育ちについて（2）乳幼児期・児童期・青年期
4	子どもの学びについて（1）学習
5	子どもの学びについて（2）知能、記憶
6	動機づけ（1）内発的動機づけと外発的動機づけ
7	動機づけ（2）子どものやる気を促すために
8	教育方法について（1）代表的な教育方法
9	教育方法について（2）子どもの学びを支援する
10	教育評価について（1）評価とは
11	教育評価について（2）幼児教育現場における評価
12	クラス運営について
13	子どもの個性の理解について
14	配慮を要する子ども
15	授業のまとめ

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

「保育のためのやさしい教育心理学」高村和代・安藤史高・小平英志著 ナカニシヤ出版

新保育ライブラリ 子どもを知る「教育心理学」無藤隆・麻生武編著 北大路書房

筆記試験80%、受講態度、レポート20%

子どもの食と栄養 I

Child's Meal and Nutrition I

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 保育士必修 》

担 当 者

大仁田 あずさ

2 年

授 業 到 達 標

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養素のはたらき、食事摂取基準など栄養に関する基本的知識を習得する。
2. 現代の子どもたちを取り巻く食環境を把握し、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
3. 「食に関する知識」と「食を選択する力」を習得し、学生自身が健康で豊かな食生活を実現する力を身につける。

授 業 内 容

平成30年度に、「保育所保育指針」が改定施行され、子どもの五感の育成をめざした食環境の構築等、施設全体で連携してさらなる食育の充実を図ることが求められている。本科目では、子どもの栄養・食生活が、生涯にわたる健康と生活の基盤であることを理解し、さらに正しい栄養の基本的知識と子どもの発育・発達段階に応じた適切な栄養の摂取や関連する栄養問題等についても学ぶ。

準備学習等の内 容

【予習】 毎回シラバスの授業テーマを確認して、次回の内容について教科書の該当箇所を読んでおくこと。

【復習】 授業で学習した内容を整理し、理解しておくこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション、子どもの心身の健康と食生活		
2	子どもの食生活の現状と課題		
3	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能①（炭水化物）		
4	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能②（脂質、たんぱく質）		
5	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能③（ミネラル）		
6	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能④（ビタミン）		
7	食品の基礎知識		
8	食事摂取基準と献立作成・調理の基本		
9	妊娠期・授乳期の栄養と食生活		
10	乳児期の心身の特徴と食生活の関係		
11	乳汁栄養（母乳栄養・人工栄養・混合栄養）		
12	離乳の意義とその必要性		
13	離乳の進め方（授乳・離乳の支援ガイド）		
14	乳児期の栄養上の問題と健康への対応		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「改訂3版 子どもの食と栄養」、新保育士養成講座編纂委員会編、全国社会福祉協議会		「子どもの栄養と食育がわかる事典」足立己幸監修、成美堂出版	筆記試験70% レポート・課題10% 受講態度20%

子どもの食と栄養Ⅱ

Child's Meal and Nutrition Ⅱ

《 1 単位(演習) / 2 年後期 / 保育士必修 》

2 年 担 当 者

大仁田 あずさ

授 業 到 達 標

1. 調理実習を通して、子どもの発育・発達段階に応じた食事内容（食品の種類、形態、量、調理法）について理解する。
2. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。
3. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。
4. アレルギー等関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

授 業 内 容

本科目では、「子どもの食と栄養Ⅰ」で習得した知識を基に、幼児期・学童期の適切な栄養摂取と健康な食事のあり方を学び、さらに保育における食育の意義とその実践についても理解を深める。また、家庭・児童福祉施設における食生活の現状と近年、深刻化している食物アレルギーなど特別な配慮を要する子どもの食生活の現状についても学習する。

準 備 学 習 等 の 内 容

【予習】 毎回シラバスの授業テーマを確認して、次回の内容について教科書の該当箇所を読んでおくこと。

【復習】 授業で学習した内容を整理し、理解しておくこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	幼児の心身の発達と食生活	
2	幼児期の間食の意義	
3	調理実習①【調乳・ベビーフードのタイプ別特徴（試食）】	
4	調理実習②【離乳食1】（生後7、8か月（離乳中期）の食事）	
5	調理実習③【離乳食2】（生後12～18か月（離乳完了期）の食事）	
6	調理実習④【幼児食1】（3～5歳児の食事）	
7	調理実習⑤【幼児食2】（間食）	
8	学童期の心身の発達と食生活	
9	生涯発達と食生活	
10	食育の基本と内容① 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方	
11	食育の基本と内容② 食育の内容と計画および評価、地域や家庭と連携した食育の展開	
12	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 疾病および体調不良の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応	
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーのある子どもへの対応	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
「子どもの食と栄養Ⅰ」で使用した教科書	「食育白書 平成29年版」 内閣府編集、勝美印刷	筆記試験60% レポート・課題10% 実技・受講態度30%

家庭支援論

Theory of Family Support

《 2 単位(講義) / 2 年後期 / 保育士必修 》

担 当 者

富 永 明 子

2 年

授 業 到 達 目 標

まずは、家庭の意義とその機能、および子育て家庭を取り巻く社会的状況等について学び、さらに、子育て家庭の支援体制について知り、家庭のニーズに応じた多様な支援展開と関係機関との連携ができる基礎づくりの学習をします。

授 業 内 容

現代社会では家族や子育てに関して複雑な問題が生じがちです。子どもに直接かかわることとやらんで、家庭を支援できる基本的知識と的確な視点を備えておくことは保育者にとって重要な課題です。授業では実践的見地から家庭支援の考え方、方法について学習していきます。

準 備 学 習 等 の 内 容

職業人として、社会や家庭における現象の中にある問題の本質を見抜き、対応するための素地となる授業です。身近な生活の場面や、新聞やニュースに見受けられる問題に敏感になりましょう。自分なりの考え、意見を持ち、ディスカッションを通して視点を洗練させていくことに努めてください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション／家庭支援とは	
2	家庭の意義と機能、家庭支援の必要性	
3	保育士等が行う家庭支援の原理	
4	現代の家庭における人間関係	
5	地域社会の変容と家庭支援	
6	男女共同参画社会とワークライフバランス	
7	子育て家庭の福祉を因るための社会資源	
8	子育て支援施策・次世代育成支援施策	
9	子育て支援サービスについて	
10	保育所入所児童の家庭への支援	
11	地域の子育て家庭への支援	
12	要保護児童及びその家庭に対する支援	
13	子育て支援における関係機関との連携	
14	子育て支援サービスの課題	
15	授業のまとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
適宜プリントを配布	「家庭支援論」吉田真理(著) 萌文書林 「子どもを愛せなくなる母親の心がわかる本」大日向雅美(監修) 講談社	筆記試験80%、受講態度・レポート20%

教育課程総論

Educational Curriculum Planning

《 2 単位(講義) / 2 年後期 / 幼稚園教諭必修 》

2 年 担 当 者

井 上 和 子

授 業 到 達 目 標

幼稚園教育要領を基準とした各幼稚園において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することを目的とする。

授 業 内 容

幼稚園教育要領に基づき、幼児期の教育の意義や特性について理解を深めるとともに、教育課程の編成及び指導計画作成上の留意点を踏まえ、発達過程に応じた保育の指導計画が作成できるように、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。

準 備 学 習 等 の 内 容

日頃から、『幼稚園教育要領解説』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』・『保育所保育指針解説書』を読んでおきましょう。
様々な幼稚園の教育課程を調べてみましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	幼稚園教育の基本と教育課程① 教育課程の意義と役割
2	幼稚園教育の基本と教育課程② 教育課程の編成の基本的な考え方
3	保育内容の変遷と教育課程－保育内容の歴史的系譜と現代の保育内容
4	指導計画作成に当たっての基本的な考え方 ①幼稚園教育における指導性
5	指導計画作成に当たっての基本的な考え方 ②環境の構成の意義
6	指導計画作成に当たっての基本的な考え方 ③指導計画の意義
7	指導計画作成に当たっての基本的な考え方 ④小学校の教育課程との接続と指導計画
8	指導計画の作成の具体的な手順とポイント ①指導計画の作成と具体的な手順
9	指導計画の作成の具体的な手順とポイント ②指導計画の作成のポイント－幼児の生活する姿を捉える
10	指導計画の作成の具体的な手順とポイント ③指導計画の作成のポイント－「ねらい」、「内容」と環境の構成
11	指導計画の作成と保育の実態 ①長期の指導計画
12	指導計画の作成と保育の実態 ②短期の指導計画
13	指導計画の作成と保育の実態 ③幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図る指導計画
14	指導計画の評価・改善のポイントと実際 ①指導計画の評価・改善のポイント
15	指導計画の評価・改善のポイントと実際 ②指導計画の評価・改善（実践事例）

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

幼稚園教育指導資料第1集『指導計画の作成と保育の展開』
(フレール館)

『幼稚園教育要領解説』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』・『保育所保育指針解説書』

・定期試験(80%)、課題の提出(20%)

保育内容Ⅰ（子どもと健康）

Contents of Child Care and Education I (Child and Health)

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 保育士必修・幼稚園教諭必修 》

担 当 者

手 嶋 孝 司

2 年

授 業 到 達 目 標

心身の健康に関する領域「健康」の意義とねらいおよび内容、内容の取扱いを理解し、健康で安全な生活習慣を獲得するための指導や各年齢段階に応じた、自発的・主体的な全身を使った身体表現活動から手軽に行える模倣遊びや運動遊びについて、実技も取り入れながら適切な指導・援助のあり方を身に付ける。

授 業 内 容

健康に関わる基本的な知識の理解と心身の健康に関する領域「健康」の意義とねらいおよび内容、内容の取扱いを学習する。また、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の趣旨を理解し、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を育てる指導のあり方や具体的な指導内容の方法を学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

テキストを事前に読み、「子どもの健康」の知識を再認識しておくこと。日頃から生活のリズムを整えて規則正しい生活をする。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	心身の健康に関する領域「健康」／子どもにとっての健康	
2	領域「健康」のねらいと内容について	
3	領域「健康」の内容の取扱いについて	
4	現代の子どもの現状と健康課題について(統計資料や写真、映像資料等から健康課題について学生の学びを深める)	
5	子どもの身体の発達について(健康課題と併せて幼児の発育・発達を統計資料や写真、資料映像等から学生の学びを深める)	
6	幼児期の運動能力と動きの獲得／運動遊びの意義と展開について(運動遊びの必要性を映像資料等から学生の学びを深める)	
7	幼児期の健康的な生活リズムと基本的な生活習慣の形成について	
8	子どもの食と健康／食育について(写真や映像資料等から食育の取り組みや幼児の変化をグループワークをとおして学びを深める)	
9	安全の視点(危険とは、リスクとハザードの違い等)と安全への配慮について(写真、映像資料等から危険な場所・遊び方を把握し、注意点や幼児の行動を理解する。さらに災害時を含めた行動の仕方をグループワークをとおして学びを深める)	
10	安全管理と安全教育について(危険と思われる場所を挙げ、その場所をビデオ・写真撮影したものをスライドにして発表する。また、幼児に災害を伝える上で必要な教材やICT活用についてグループワークを行い学びを深める)	
11	指導計画と指導案の書き方・作成	
12	模擬保育の準備(幼児の学びを深めるために活用できる視聴覚教材等についてグループワークを行う)	
13	模擬保育の実践(学生自らがビデオ・写真撮影、記録等を行いICT活用について学びを深める)	
14	模擬保育の振り返り(活動案や教材研究の成果をスライド等で発表し、学生間での相互評価を行う)	
15	保育内容「健康」指導法のまとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
演習 保育内容「健康」井狩芳子著 萌文書林	幼稚園教育要領(文部科学省) 保育所保育指針(厚生労働省)・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府)	①レポート課題50%②授業参加状況40%③健康チェック記録表10%を基に総合評価する。

保育内容Ⅱ（子どもと環境）

Contents of Child Education Ⅱ (Child and Environment)

《 1 単位(演習) / 2 年後期 / 保育士必修・幼稚園教諭必修 》

2年 担 当 者

下 稻 美 里

授 業 到 達 標

子どもを取りまく環境や、子どもと環境との関わりについて理解する。また、受講者は本授業の学びを通して、感性を養い、専門的な知識や技能を身に付けることを目標とする。

授 業 内 容

本授業では、子どもを取り巻く環境について保育の事例を基に学んでいく。また、受講者は環境に関わる体験や活動を通して、子どもが何を感じたり味わったりしているのか等を実感し、子ども理解、環境の理解に努める。

準 備 学 習 等 の 内 容

教科書の目次に目を通し、どのような章立て、内容等で構成されているかを確認して下さい。保育所保育指針、幼稚園教育要領に目を通しましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション、子ども取り巻く環境① ～「環境」とは?～	
2	子どもを取り巻く環境② ～環境の諸側面（物的・人的、安全等）～	
3	子どもの発達の見方・とらえ方 ～身近な環境を通して考える～	
4	子どもの認知的発達の特徴	
5	子どもと自然環境① ～周辺散策をしながら自然を観察する～	
6	子どもと自然環境② ～「においから広がる興味の世界」の活動事例を基に～	
7	子どもと数量・図形① ～生活や遊びの中にある数や図形～	
8	子どもと数量・図形② ～図形を用いた創造遊び～	
9	子どもと数量・図形③ ～お店やさんごっこ準備～	
10	子どもと数量・図形④ ～お店やさんごっこ準備～	
11	環境を通して子どもが学ぶもの ～お店やさんごっこの実践～	
12	環境作りと保育者の援助や配慮 ～お店やさんごっこの実践から考える～	
13	子どもと標識・文字等との関わり① ～標識、看板探し～	
14	子どもと標識・文字等との関わり② ～グループ発表と振り返り～	
15	授業のまとめ ～環境が子どもを豊かにする～	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
なし	保育所保育指針（平成29年度改訂）厚生労働省、幼稚園教育要領（平成29年度改訂）文部科学省	授業参加態度（グループ活動、発表等）35% 毎回の授業の最後に提出する感想15% 最終レポート50%

保育内容Ⅲ（子どもと言葉）

Contents of Child Care and Education Ⅲ (Child and Word)

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 保育士必修・幼稚園教諭必修 》

担 当 者

北 野 哲 也

2 年

授 業 到 達 標

本講義においては、乳幼児が言葉を獲得し、成長・発達していく過程を学び、学生自身の言葉による表現や理解力を高めイメージや言葉を豊かにする指導方法についての知識や技能を高める。
1. 乳幼児の言葉の発達やその特徴について説明ができる。2. 言葉を豊かにする方法としての言葉の環境について説明ができる。3. 選択した児童文化財を利用して保育に活用でき、保育の立案ができる。4. 言葉遊びの楽しさを伝えることができる。

授 業 内 容

講義では、子どもが興味をもつ絵本や物語を読んだり言葉遊びをしたり等を通して、子どもの言葉の発達過程について理解を深め、保育所保育指針や幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領のねらいや内容にそった、領域「言葉」についての基本的理解を高め、言葉を豊かにする方法や保育現場における乳幼児への対応や配慮について学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

絵本や紙芝居をできるだけたくさん触れるようにしましょう。子どもや身近な人との会話を楽しみ、また子どもへの語りかけやその方法などにも興味を持って取り組みましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	保育の基本と領域「言語」	
2	保育内容と領域「言語」	
3	言語の特徴と発達の関係（1）	
4	言語の特徴と発達の関係（2）	
5	言葉環境（1）個人と集団	
6	言葉環境（2）家庭と施設	
7	言葉環境（3）地域社会とメディア	
8	お話とその魅力（1）絵本と紙芝居	
9	お話とその魅力（2）絵本と紙芝居	
10	お話とその魅力（3）絵本と紙芝居	
11	言葉遊びとお話づくり（1）言葉遊び（クイズやなぞなぞ等）	
12	言葉遊びとお話づくり（2）言葉遊びの実践	
13	言葉遊びとお話づくり（3）実践とカリキュラムとの関係	
14	創作発表会	
15	まとめ	
教科書(必須)		
参考書・参考文献		
評価基準		
保育内容「言葉」 榎沢良彦・入江礼子 編著 建帛社	保育所保育指針及び解説書 厚生労働省 編 絵本や紙芝居等を使用して言葉 を楽しみましょう。	平常点（課題の提出10%、受講態度10%）を重視します。 評価方法は、筆記試験（80%）に平常点を加味したうえで、単位認定の評価点を算出します。

保育内容Ⅳ（子どもと人間関係）

Curriculum Research for Kindergarten Education Ⅳ (Human Relation for Children)

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 保育士必修・幼稚園教諭必修 》

2年 担 当 者

富 永 明 子

授 業 到 達 標

乳幼児にとって人とのかかわりは重要です。そのため、乳幼児期の人とのかかわりの意味について学習し、適切な援助ができるようになることをめざします。また、幼稚園教育要領、保育所保育指針、および幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」について理解し、理論をふまえた実践について学びます。

授 業 内 容

乳幼児期の人間関係の発達を促すための適切な援助について理解するために、ディスカッションやグループワークを通して学びます。

準 備 学 習 等 の 内 容

自分自身の体験をふり返ることや、日常生活での場面において、子どもにとっての人とのかかわりの視点から現象をとらえる練習をしてみましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション／人間関係とは						
2	乳児期の人とのかかわり						
3	人とのかかわり～乳児期から幼児期へ						
4	幼児期の人間関係						
5	領域「人間関係」を理解する						
6	領域「人間関係」を説明する						
7	領域「人間関係」を読み込む						
8	子どもの個性と人間関係						
9	子どもどうしの関係～葛藤から学ぶ						
10	子どもどうしの関係～自己表現						
11	子どもの葛藤状況を活かす						
12	人間関係を築くということ						
13	人間関係により生じるもの						
14	人間関係でちょっと気になる子ども						
15	授業のまとめ						
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">教科書(必須)</th> <th style="width: 35%;">参考書・参考文献</th> <th style="width: 35%;">評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>適宜プリントを配布</td> <td>幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説書</td> <td>筆記試験70%、受講態度・レポート30%</td> </tr> </tbody> </table>		教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準	適宜プリントを配布	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説書	筆記試験70%、受講態度・レポート30%
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準					
適宜プリントを配布	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説書	筆記試験70%、受講態度・レポート30%					

造形表現指導法

Teaching Method of Art Works Expression

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 幼稚園教諭必修 》

2 年

担 当 者

平 山 隆 浩

授 業 到 達 標 目

幼児期の造形表現とは何か、また造形活動の目的とは何かについて、総合的に子どもの生活と表現活動を捉え、それが適切に提供されるための理論と指導援助法を習得することを目的とする。また、子ども一人ひとりの創造性を引き出すことのできる「創造的思考力」の理論と方法を身に付けることを目標とする。

授 業 内 容

ラベルワークやワールドカフェなどの手法を授業に取り入れ、アクティブラーニング型授業を展開する。具体的には造形表現の模擬保育を中心に授業を展開し、実戦感覚で造形表現の指導法を学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

子どもと造形表現 I で使用したミニクロッキー帳を使用し、日頃から保育教材になりそうなネタを集めていきましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	幼児と表現について		
2	保育をつくる① ドキュメンテーションについて		
3	保育をつくる② 指導計画の作成		
4	模擬保育に向けた教材研究		
5	模擬保育①		
6	模擬保育の振り返り①		
7	模擬保育②		
8	模擬保育の振り返り②		
9	幼児の表現と指導援助の実際		
10	模擬保育③		
11	模擬保育の振り返り③		
12	造形製作の年間計画を立ててみよう		
13	子どもにとっての造形表現とは何か		
14	学びのポートフォリオ作成		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
なし		幼稚園教育要領解説	模擬保育50%・レポート課題50%

障害児保育Ⅱ

Care for Children with Disabilities Ⅱ

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 保育士必修 》

2 年 担 当 者

小 堀 晶 弘

授 業 到 達 標 目

発達障害のある子どもの保育、その保護者・家庭への支援方法について学ぶ。
ADHD・LD・自閉症の3つの発達障害を中心に学び理解を深める。

授 業 内 容

1. 発達障害の特徴について理解する。
2. 発達障害への支援法について学ぶ。
3. 発達障害のある子どもの保護者への支援方法について学ぶ。
4. 関連機関との連携について学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

発達障害に関連する書籍を読んで事前に学習する。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ADHD・LD① 概要		
2	ADHD・LD② 子どもを診る視点		
3	ADHD・LD③ 保育の現場		
4	ADHD・LD④ 子どもの生活支援		
5	ADHD・LD⑤ 家族への支援		
6	ADHD・LD⑥ 当事者の視点		
7	ADHD・LD⑦ 子どもから見える世界		
8	ADHD・LD⑧ 虐待・非行との関係		
9	自閉症① 概要		
10	自閉症② 自閉症傾向の支援		
11	自閉症③ 幼児期における療育		
12	自閉症④ 自閉症児への自立支援		
13	自閉症⑤ コミュニケーション支援		
14	自閉症⑥ 家族への支援と医療的ケア		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
なし		「軽度発達障害の理解と対応」 田中洋二郎 大月書店	筆記試験70%、受講態度30%

社会的養護内容

Social Assistance

《 1 単位(演習) / 2 年後期 / 保育士必修 》

担 当 者

小 堀 晶 弘

2 年

授 業 到 達 標

1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について理解する。
2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について理解する。
3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活支援、治療的支援、自立支援等の内容を理解する。
4. 社会的養護に関わるソーシャルワークの方法と技術について理解する。
5. 社会的養護をとおして、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解する。

授 業 内 容

1. 社会的養護における児童の権利擁護と保育士等の倫理及び責務
2. 社会的養護の実施体系
3. 支援計画と内容及び事例分析
4. 社会的養護に関わる専門的技術
5. 今後の課題と展望

準備学習等の
内 容

施設養護の概要について事前に学習する。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	児童養護の体系と児童福祉施設の概要		
2	児童養護施設の暮らし		
3	乳児院と母子生活支援施設での暮らし		
4	児童自立支援施設と情緒障害児短期療養施設の暮らし		
5	知的障害児施設と自閉症児施設・盲ろうあ児施設の暮らし		
6	重症心身障害児施設と肢体不自由児施設の暮らし		
7	入所時の支援と基本的な日常生活の支援		
8	虐待された子どもへの支援		
9	親子関係の調整		
10	学校、地域との関係調整		
11	自立への支援		
12	生存と発達の保障		
13	援助者の資質と倫理		
14	専門的援助技術の活用		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
なし		社会的養護内容 伊藤嘉余子/ 小池由佳 編著、ミネルヴァ書 房。	1) 定期試験70% 2) 学習態度30%

保育相談支援

Child Care Consultation Support

《 1 単位(演習) / 2 年後期 / 保育士必修 》

2 年 担 当 者

北 野 哲 也

授 業 到 達 目 標

保護者は子どもの成長・発達に大きな期待と喜びを見出し、夢と希望を抱きながら子育てに励みつつも育児への不安は絶えることはない。保育者への一筋の期待感をもちながら援助者としての保育の専門性を持ち、子育てを促進する資質を求める。

授 業 内 容

本講においては保護者支援の実際の事例を基に子育て支援の在り方の基本的理解を検討し、深める。

準 備 学 習 等 の 内 容

根気よく聴く態度や話題の中心的課題を模索できるようにその技量を高めましょう。一生懸命に悩みましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	保育相談支援の意義	
2	子ども・家庭についての相談支援の理解（1）	
3	子ども・家庭についての相談支援の理解（2）	
4	子ども・家庭についての相談支援の理解（3）	
5	保育士の専門性を生かした支援	
6	保育士の保育相談支援の基礎（1）	
7	保育士の保育相談支援の基礎（2）	
8	保育士の保育相談支援の基礎（3）	
9	児童虐待への理解	
10	保護者支援の内容と方法（1）	
11	保護者支援の内容と方法（2）	
12	関係機関との連携、地域資源の活用	
13	地域資源の活用	
14	関係機関との連携・活用	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
子育て支援 19 監修 公益財団法人児童育成協会 編集 西村 重稀 青井 夕貴 中央法規	保育所保育指針解説書 及び厚生労働省編 フレーベル館	平常点（課題の提出10%、受講態度10%）を重視します。 評価方法は、筆記試験（80%）に平常点を加味したうえで、単位認定の評価点を算出します。

子どもと音楽表現Ⅱ

Singing and Accompaniment of Childcare Ⅱ

《 1 単位(演習) / 2 年前期 》

2 年

担 当 者

吉原美南子・四童子 薫・加藤みゆき・室北 昌子・上田 浩平

授 業 到 達 標

昨年度の授業で修得した内容をふまえて、更なる応用的な技術と豊かな表現力の獲得を目指す。また、保育現場で歌われている園生活の歌や季節の歌、童謡などを楽譜に添って、楽しく弾きながら歌うことができるようにする。

授 業 内 容

弾き歌いの個人レッスン形式にて実施する。実習園から頂いた課題の曲についても個別対応していく。各自に与えられた課題に取り組み、歌唱、ピアノ演奏ともに目標を達成する。

準備学習等の
内 容

弾き歌いの技術の習得のためには、週に1度のレッスンだけでは不十分である。授業以外でピアノと向き合う時間を確保し、レッスンのための予習・復習を必ず行うこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション		
2	弾き歌いの個人レッスン①		
3	弾き歌いの個人レッスン②		
4	弾き歌いの個人レッスン③		
5	弾き歌いの個人レッスン④		
6	弾き歌いの個人レッスン⑤		
7	弾き歌いの個人レッスン⑥		
8	中間発表会		
9	弾き歌いの個人レッスン⑦		
10	弾き歌いの個人レッスン⑧		
11	弾き歌いの個人レッスン⑨		
12	弾き歌いの個人レッスン⑩		
13	弾き歌いの個人レッスン⑪		
14	弾き歌いの個人レッスン⑫		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「こどものうた大百科」松山祐士著 ドレミ楽譜出版		必要に応じて資料を配付する。	毎週の課題への取り組み及び中間発表会50%、実技試験50%

運動遊び

Exercise and Games

《 1 単位(演習) / 2 年前期 》

2 年 担 当 者

太刀山 美樹

授 業 到 達 目 的

幼児期の発育・発達を理解し、新しい遊びを考案するなど、創造性豊かな遊びの実践力を養い、幼児が楽しく安全にできる運動遊びの指導ができる。

授 業 内 容

乳幼児期の運動発達や運動学習過程、運動遊具や教材の扱い方などの知識を踏まえ、応用的な授業を行う。指導計画・指導案を作成する。

準 備 学 習 等 の 内 容

子どもの健全な心身の成長・発達には、保育者自身が活発に体を動かして子どもたちと一緒に遊び楽しむために日頃から健康管理を心がける。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション／授業記録表の記入	
2	発育発達段階に応じた運動遊びと指導法	
3	基本的運動遊び（歩く・走る・跳ぶ）	
4	基本的運動遊び（跳び箱・マット）	
5	指導計画の立て方	
6	固定遊具を使った運動遊び（すべり台・鉄棒・ジャングルジム）	
7	小型移動遊具を使った運動遊び（フープ・新聞紙）	
8	小型移動遊具を使った運動遊び（ボール・ロープ・棒）	
9	集団遊び①鬼遊び（鬼ごっこ）・ボール・リレー	
10	集団遊び②パラバルーン	
11	運動会の取り組み①	
12	運動会の取り組み② テスト	
13	お遊戯会の取り組み①	
14	お遊戯会の取り組み② テスト	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
なし 適宜資料を配付する。	345歳児組 発達に合わせてすぐ使える楽しい 幼児の運動遊び107 馬場桂一郎 著書 明治図書	①実技テスト(50%) ②課題30% ③授業態度20%を基 に総合評価する。

保育所実習Ⅱ

Practical Training on Education and Care for Children Ⅱ

《 2単位(実習) / 2年前期 / 保育士選択必修 》

2年

担 当 者

四童子 薫

授 業 到 達 目 標

既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深め、子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで保育の理解を深める。そして、子どもの保育および保育者支援について総合的に学ぶ。将来に向けて保育士としての自己の課題を明確化する。

授 業 内 容

保育の計画、実践、観察、記録および自己評価等について実際に取り組み、理解を深め、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。

準 備 学 習 等 の 内 容

保育所実習は、大学で学んだ教科全体の知識・技能を基礎とし、総合的に実践する応用能力を養う場であるため、大学での1つひとつの授業を大切に、保育にかかわる知識・技能の習得を目指すこと。また、保育所実習Ⅱの心構えや学びのポイントは「保育実習指導Ⅱ」の授業で取り扱うことになる。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1		
2	1. 保育所の役割と機能の具体的展開	
3	(1) 養護と教育が一体となって行われる保育	
4	(2) 保育所の社会的役割と責任	
5	2. 観察に基づく保育理解	
6	(1) 子どもの心身の状態や活動の観察	
7	(2) 保育士等の動きや実践の観察	
8	(3) 保育所の生活の流れや展開の把握	
9	3. 子どもの保育および保育者・家庭への支援と地域社会等との連携	
10	(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の過程の理解	
11	(2) 入所している子どもの保護者支援および地域の子育て家庭への支援	
12	(3) 地域社会との連携	
13	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価	
14	(1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解	
15	(2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価	
	5. 保育士の業務と職業倫理	
	6. 自己の課題の明確化	
	上記の内容を8月に10日間の実習で学ぶ。 実習場所は保育所にて実施する。	
教科書(必須)		評価基準
	参考書・参考文献 「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社	実習先からの評価(70%) 実習の直前指導・事後指導・実習報告会・提出物(30%)

施設実習Ⅱ（施設・児童館）

Practice in Institutional Ⅱ

《 2単位(実習) / 2年前期 / 保育士選択必修 》

2年 担 当 者

小 堀 晶 弘

授 業 到 達 標 目

施設実習Ⅱでは、保育、教育、福祉に関わる全ての知識や技術をもとに総合的に実践を通して、1年次の施設実習Ⅰで学んだ内容を更に理解を深める。

授 業 内 容

1. 施設が、専門分化した機能を担っていることを理解する。
2. 施設の利用者について理解する。
3. 施設で働く職員の業務について理解する。
4. 関連する機関との連携について理解する。
5. 職員間の連携、人間関係のあり方について理解する。

準 備 学 習 等 の 内 容

施設のビデオを見て事前に学習する。
施設の概要について事前に学習する。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	【期間】 8月に10日間実施する。	
2	【実習場所】 保育所又は「施設実習Ⅰ」で実習した施設以外のどちらかを選択し、施設での実習を選択した場合に実施する。	
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
なし	施設実習ガイド 駒井美智子 編著 萌文書林	実習日誌内容、実習評価結果

保育実習指導Ⅱ（保育所）

Child Care Teaching Instruction Ⅱ

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 保育士選択必修 》

担 当 者

四童子 薫・下稻 美里

2 年

授 業 到 達
目 標

1 年次の実習・保育実習指導を踏まえ、保育について理解を深める。

授 業 内 容

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

準備学習等の
内 容

1 年次の保育所実習Ⅰ、施設実習Ⅰの反省点についてまとめておく。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション（意義と目的）	
2	保育所実習Ⅰのフィードバックと自己評価	
3	グループワーク（報告会に向けての意見交換）①	
4	グループワーク（報告会に向けての意見交換）②	
5	実習報告会	
6	保育士に求められる資質と職業倫理①	
7	保育士に求められる資質と職業倫理②	
8	指導実習（責任実習）についての理解	
9	実習日誌のフィードバック①	
10	実習日誌のフィードバック②	
11	指導案立案について①	
12	指導案立案について②	
13	保育士としての自己課題の明確化	
14	グループワーク（指導案のプレゼンテーション）	
15	直前指導	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
なし	「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社	レポート課題（50%）、受講態度（30%）、実習に行くにあたり必要な書類の手続き（20%）

保育実習指導Ⅲ（施設・児童館）

Child Care Teaching Instruction Ⅲ

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 保育士選択必修》

2年 担 当 者

小堀 晶弘・吉原美南子

授 業 到 達 標

1 年次の実習・保育実習指導を踏まえ、保育について理解を深める。

授 業 内 容

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

準備学習等の
内 容

1 年次の保育実習Ⅰ、施設実習Ⅰの反省点についてまとめておく。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション（意義と目的）	
2	施設実習Ⅰのフィードバックと自己評価	
3	グループワーク（報告会に向けての意見交換）①	
4	グループワーク（報告会に向けての意見交換）②	
5	実習報告会	
6	施設保育士に求められる資質と職業倫理①	
7	施設保育士に求められる資質と職業倫理②	
8	指導実習（責任実習）についての理解	
9	実習日誌のフィードバック①	
10	実習日誌のフィードバック②	
11	指導案立案について①	
12	指導案立案について②	
13	施設保育士としての自己課題の明確化	
14	グループワーク（指導案のプレゼンテーション）	
15	直前指導	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
なし	施設実習ガイド 駒井美智子 編著 萌文書林	レポート課題（50%）、受講態度（30%）、 実習に行くにあたり必要な書類の手続き（20%）

教育実習指導Ⅱ

Practice Teaching Instruction Ⅱ

《 1 単位(演習) / 2 年通年 / 幼稚園教諭必修 》

担 当 者

余公 裕次・稲田 義邦・平山 隆浩

2 年

授 業 到 達
目 標

教育実習の意義や目的を理解し、自ら目標をもって教育実習に臨むことができる。
教育実習に関する諸手続きなど、実習までの準備を適切に行うことができる。
教育実習後、自らの実習を総点検し、自己反省を通して、今後の自己課題を明らかにする。

授 業 内 容

教育実習に際しての事前指導と事後指導を行う。PDCA サイクルを活用しグループワークを取り入れ実習終了後に実習報告会を行い、学びの共有化を図り、就職後の自分をイメージして幼児教育についての学びを深める。

準備学習等の
内 容

さまざまな教科での学びを、実習で活かせるように心がけしっかりと学ぶ。また、いつでも実習に行けるよう心の準備をしておくことも大切である。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1. 事前訪問必要書類について
2. 教育実習の意義と心構え
3. 実習の目標と自己課題設定 (PDCA サイクル)
4. 観察の仕方とメモの取り方
5. 実習日誌の意義と書き方
6. 第一回教育実習直前指導
7. 第一回教育実習事後指導
8. 実習の自己評価
9. 第一回教育実習グループ内報告会
10. 実習の目標と自己課題設定 (PDCA サイクル)
11. 第二回教育実習直前指導
12. 第二回教育実習事後指導
13. 教育実習報告会準備
14. 教育実習報告会
15. 就職に向けての自己課題

教科書(必須)

実習日誌・実習指導案
パーフェクトガイド
著者代表 小櫃智子
わかば社

参考書・参考文献

幼稚園教育要領解説
幼稚園・保育所実習 パーフェ
クトガイド 著者代表 小櫃智
子 わかば社

評価基準

レポート課題50%・実習報告書 (PDCA を含む)
30%・事前事後指導における書類の手続き他20%

教育実習

Teaching Instruction

《 4単位(実習) / 2年通年 / 幼稚園教諭必修 》

2年 担 当 者

余 公 裕 次

授 業 到 達 標

幼稚園教諭としての実践的指導力を育成するとともに幼児に対する理解を深め、保育者としての使命感・資質・能力を身に付ける。

授 業 内 容

第1回教育実習・第2回教育実習を行い、幼稚園教育について理解する。「参加・指導」という段階の実習で、幼稚園教育に参加し、担任として全日実習（責任実習）を体験する。

準 備 学 習 等 の 内 容

設定保育に関する教材研究や指導計画の作成を通して、幼稚園教育の理解を深める。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

2年次に、2回幼稚園において教育実習を行う。子どもの遊びや活動・発達を理解し、子どもと幼稚園生活全体を総合的に理解をする。

・第1回教育実習

1週目：保育の一日の流れを理解し、子どもの幼稚園での生活を観察する。

2週目：指導計画を作成し、部分保育や設定保育を担当する。また、実習最終段階では、全日指導を担当する場合もある。

・第2回教育実習

第1回教育実習の反省をふまえて、自ら課題を設定し実習に臨む。

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

幼稚園教育要領解説
実習日誌・実習指導案 パー
フェクトガイド 著者代表 小
櫃智子 わかば社

幼稚園・保育所実習・認定こ
ども園 パーフェクトガイド 著
者代表 小櫃智子 わかば社

実習生の実習状況(30%)、評価規準(70%)、「(指導の準備)・(幼児理解・指導)・(実習態度)・(実習日誌の記載)」等から総合的に評価を行う。

保育・教職実践演習（幼稚園）

Child Care and Education Teaching Practicum

《 2 単位(演習) / 2 年後期 / 保育士必修・幼稚園教諭必修 》

担 当 者

稲 田 義 邦

2 年

授 業 到 達 目 標

実習で学んだ子ども理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割についての認識を深める。さらに、保育者としての使命感や責任感、対人関係能力、学級経営力や保育指導力を高め、保育者としての資質の向上を目指す。また他の教員や外部講師との協力により、特別支援教育や保育現場の実情等の理解を深める。

授 業 内 容

これまでの実習で学んできたことを基に、役割演技や模擬授業、事例研究、現職保育者との意見交換等を通して、教職の意義や保育者の役割、職務内容、保育者としての表現力や指導力、子どもに対する責務等を身につけていく。

準 備 学 習 等 の 内 容

実習で出会った子どもや保育者との関わりの中で困惑したことや疑問に思ったことを振り返り、専門職への意義と方向性を見出せるよう積極的に授業へ参加すること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	保育・教職実践演習のねらい	
2	子ども理解の方法	
3	教育課程・全体的な計画の検討	
4	保護者及び地域との関係づくり	
5	幼保小の連携	
6	保育者の職務の検討	
7	保育内容の理解	
8	保育教材の分析	
9	園の安全管理	
10	保育者の専門性の理解	
11	保育の振り返り	
12	保育現場の現状と課題（外部講師）	
13	保育者のコミュニケーション能力の向上	
14	特別な支援を必要とする子どもの保育の理解	
15	目指す保育者像	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館 「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館	「これまでの学びと保育者への歩み」小櫃智子・矢藤誠慈郎 わかば社	課題提出70%、受講態度30%

卒業研究

Graduation research

《 2 単位(演習) / 2 年通年 / 卒業必修 》

2 年 担 当 者

富永明子・稲田義邦・平山隆浩・吉原美南子・小堀晶弘・余公裕次・四童子薫・下稻美里

授 業 到 達 標 目

保育者養成課程の総まとめをすると共に、保育に関わる専門的能力（造形・音楽・体育・子育て支援など）をゼミナール形式の演習を通して身につける。実践の内容を多く取り入れ、保育技術の体得を目指すだけでなく、一社会人として必要とされる教養と社会人基礎力の向上も目的とする。

授 業 内 容

各教員の専門性を活かした内容の中で、それぞれが研究テーマを設定し、それに基づきながら1年を通して応用的に学んでいく。後期終了後には卒業研究発表会を行う。

準備学習等の内 容

常に問題意識を持ち、テーマを決めて学ぶ姿勢を維持すること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

週	前 期	週	後 期
1	卒業研究とは	1	研究テーマの再確認
2	研究テーマ設定	2	テーマに基づいた研究①
3	研究テーマプレゼンテーション	3	〃 ⑫
4	テーマに基づいた研究①	4	〃 ⑬
5	〃 ②	5	〃 ⑭
6	〃 ③	6	〃 ⑮
7	〃 ④	7	〃 ⑯
8	〃 ⑤	8	〃 ⑰
9	〃 ⑥	9	〃 ⑱
10	〃 ⑦	10	研究のまとめ①
11	〃 ⑧	11	〃 ⑲
12	〃 ⑨	12	〃 ⑳
13	〃 ⑩	13	研究発表会リハーサル①
14	中間発表	14	〃 ㉑
15	前期まとめ	15	まとめ
教科書(必須)		参考書・参考文献	
なし		新版 大学生のためのレポート・論文術 小笠原 喜康(著) 講談社現代新書	
		評価基準	
		研究レポート・課題制作・発表内容等70% 授業態度30%	

児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法 I

The activity contents and instruction method of child center and after school children's clubs I

《 2 単位(講義) / 2 年前期 》

2 年

担 当 者

片 本 仁

授 業 到 達 標 目

児童ソーシャルワークをベースとした、児童館、放課後児童クラブの日々の活動の流れとともに、行事の企画や利用者への対応、地域との関わり等について学び、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を把握する。

授 業 内 容

児童館・放課後児童クラブにおける日々の活動の流れ、年間を通じた活動の流れ、行事等の企画立案
小学生のさまざまな活動や仲間づくり、子育て支援活動、中高生の居場所づくり、ボランティアの育成・支援、児童館・放課後児童クラブの基本的活動の実施方法

準 備 学 習 等 の 内 容

日頃より、子どもを取り巻く環境や現代の子どもたちの課題を新聞やTV、インターネットなどから、情報を収集しておく。
児童館や放課後児童クラブについて興味関心を持ち、情報を収集したり、現場を見学などができるようなのであれば、見学させていただく。
子どもを対象とした催しや事業などに興味関心を持ち、子どものニーズにも興味を持ち、情報を収集しておく。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション	
2	児童館の週・年の流れと活動のねらい、遊びの環境構成	
3	児童クラブの1日の流れと活動のねらい、遊びの環境構成	
4	遊びを通じた支援の実際（プログラムづくり、具体的展開、支援法）	
5	遊びを通じた児童の健全育成	
6	児童館・児童クラブにおけるケースワーク	
7	児童館・児童クラブにおけるグループワーク	
8	小学生の仲間づくり、体験活動の実際、居場所づくり	
9	児童館における子育て支援活動の実際	
10	児童館における中高生の支援、居場所づくり	
11	ボランティアの育成・支援	
12	保護者・学校・地域との連携	
13	子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案	
14	まとめ①	
15	まとめ②	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
	児童館論 一般財団法人 児童健全育成財団	試験 90% 授業態度 10%

レクリエーション実技 I

Recreation Activity I

《 1 単位(演習) / 2 年前期 》

2 年 担 当 者

原 田 弘 美

授 業 到 達 目 標

- ①仲良く楽しい人間関係を作り出すためのコミュニケーションワークについて学習を深め、集団をリードし一体感を生み出す指導技術の習得をめざす。
- ②集団や個人のニーズに応じたレクリエーション活動の多様さについて説明できる。
- ③レクリエーション・インストラクターの資格取得をめざす。

授 業 内 容

授業全体を通して楽しい人間関係を創り出す支援者の基本的な考え方、仲間づくり、人々のふれ合い活動などの方法を実践をとおして学びます。また、レクリエーション活動の多様さを理解し、集団や個人のニーズに応じたレクリエーションの選定や提供の仕方、レクリエーション活動のアレンジなどの指導・援助についての方法を学びます。

準 備 学 習 等 の 内 容

実技・演習で学習したことを“できる”“提供できる”ようトレーニングをおこなう。
対象・目的にあわせたレクリエーション支援を行うためのアレンジなどを考察する

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション		
2	信頼関係づくりの方法 ホスピタリティ 1		
3	信頼関係づくりの方法 ホスピタリティ 2		
4	良好な集団づくりの方法 アイスブレイキング 1		
5	良好な集団づくりの方法 アイスブレイキング 2		
6	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法 1		
7	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法 2		
8	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法 3		
9	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法 4		
10	モデルプログラムの習得 1		
11	モデルプログラムの習得 2		
12	個々の活動の習得 ゲーム		
13	個々の活動の習得 ゲーム		
14	個々の活動の習得 音楽に合わせた身体活動		
15	実技のまとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
楽しいをつくる～レクリエーション指導者ハンドブック NPO 法人福岡県レクリエーション協会発行 ～レクリエーション支援の理論と方法(1年次使用したもの)			提出物40% 演習60%

レクリエーション実技Ⅱ

Recreation Activity Ⅱ

《 1 単位(演習) / 2 年後期 》

2 年

担 当 者

原 田 弘 美

授 業 到 達 目 標

- ①レクリエーション、インストラクターに必要なとされる各分野の指導法を身につけるとともに、自らレクリエーション活動を工夫、発展させていくことができる。
- ②目的・対象にあわせたレクリエーション演習が企画・実施できる。
- ③レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指す。

授 業 内 容

レクリエーション実技Ⅰで学んだ技術を活かし、演習を行います。
対象や目的に合わせたレクリエーション活動の選択を指導案の作成で学び、段階的に提供していく技術やプログラムの展開、集団のよさを活かした指導方法などの技術を演習を通して学びます。
さらに演習を終えてふりかえりを共有することで次の活動に活かすポイントを確認します。

準 備 学 習 等 の 内 容

仲良く楽しい人間関係を創り出すために、コミュニケーション力を磨きましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	自主的、主体的に楽しむ力をはぐくむレクリエーション活動の展開方法	
2	個々のレクリエーション活動の習得 ニュースポーツ	
3	個々のレクリエーション活動の習得 ニュースポーツ	
4	個々のレクリエーション活動の習得 創作活動	
5	個々のレクリエーション活動の習得 創作活動	
6	個々のレクリエーション活動の取得 音楽に合わせた身体活動	
7	プログラムの立案 1	
8	プログラムの立案 2	
9	レクリエーション支援の実施 総合演習 ①	
10	レクリエーション支援の実施 総合演習 ②	
11	レクリエーション支援の実施 総合演習 ③	
12	レクリエーション支援の実施 総合演習 ④	
13	レクリエーション支援の実施 総合演習 ⑤	
14	レクリエーション支援の実施 総合演習 ⑥	
15	演習のまとめとふりかえり	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
楽しいをつくる～レクリエーション指導者ハンドブック NPO法人福岡県レクリエーション協会発行～レクリエーション支援の理論と方法(1年次使用したもの)		提出物40% 学習態度や発表状況 60%

発行日 2019年3月

発行者 西日本短期大学

〒810-0066

福岡県福岡市中央区福浜1-3-1

TEL 092-721-1141 (代表) 092-721-1152 (学務課直通)

学籍番号		氏名	
------	--	----	--

在学中の講義要項は、編入時の単位認定や資格取得時に提示を求められることがありますので、卒業後も各自保管してください。